

京都大学生態学研究センター
業績目録

Publication List

Center for Ecological Research, Kyoto University

第 35 巻 (2025 年)
2026 (令和 8) 年 3 月

Volume 35 (2025)
March, 2026

京都大学

生態学研究センター・業績目録 第 35 巻

京都大学生態学研究センター
〒 520-2113 滋賀県大津市平野 2 丁目 509-3
Tel : (077) 549-8200 (代表)
Fax : (077) 549-8201
センター長 木庭啓介

*Center for Ecological Research,
Kyoto University
2-509-3 Hirano, Otsu, Shiga,
520-2113, Japan
Home page: <https://www.ecology.kyoto-u.ac.jp>*

はじめに

生態学研究センター・業績目録 第 35 巻をお届け致します。2025 年度における生態学研究センターのスタッフ、研究員、大学院生、研究生、および協力研究員の研究成果のリスト、ならびに共同利用・共同研究拠点としての活動状況の概要をまとめたものです。

生態学研究センター（以下、生態研）は「生態学の基礎研究の推進と生態学関連の国際共同研究の推進」を目的に、1991 年度に全国共同利用施設として設置されました。その後、2001 年度からは第二期生態学研究センターとなり、2010 年度には「共同利用・共同研究拠点」として文科省の認定を受け、現在まで同拠点の継続を認定されています。また京都大学が生態研に対して課していた時限が 2016 年度より撤廃され、より自律的な運営を行っております。

生態研は、先端研究拠点事業、環境省地球環境研究推進費、CREST、最先端・次世代研究開発支援プログラム、特別推進研究などの大型プロジェクトを進め、数多くの重要な研究成果を上げてきただけでなく、西太平洋アジア生物多様性研究ネットワーク（DIWPA）活動を通じて国際的な生物多様性研究の促進にも貢献しています。さらに、理学研究科の大学院教育を通じた教育活動も行ってきました。

生態研は、「生物多様性・生態系の統合的研究および次世代の育成を通じて、人と自然の持続的関係の構築に貢献する」というミッションの元、生物間相互作用から生まれる多様性創出のメカニズム、群集構造の解明、さらに物質循環プロセスから生じる生態系サービスを保全するための理論を構築することを目指しています。私達は、このような研究が、生物多様性を保全する意義を明確にし、人間と自然の持続的な共生を達成するために必要不可欠なものと考えています。皆様におかれましては、今後ともご支援とご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2026 年 3 月
京都大学生態学研究センター長 木庭啓介

目 次

活動報告	3
プロジェクト	8
著作リストの収録内容	13
A. Faculty 教員	14
B. Graduate Students and Research Fellows 研究員・大学院生・研究生	25
C. Affiliated Scientists 協力研究員	27
生態研セミナー	30
共同利用・共同研究拠点事業 共同研究 b 採択一覧	33
調査船「はす」運航及び利用実績表	35

活動報告

生態学研究センターでは、2025 年度に次のような共同利用事業およびセンター運営の活動を行いました。

1. プロジェクト

2025 年度にセンターが行ったプロジェクトは 54 件であった（本号 8-12 ページ）。科学研究費助成事業等による研究などが進められた。

2. DIWPA の活動

DDIWPA は、ニュースレター No.53 を 2025 年 8 月、No.54 を 2026 年 3 月に、計二号を Web 発行した。また、DIWPA International Field Biology Course（国際生物学コース）を 2026 年 1 月 26 日から 30 日にかけて Sri Lanka の University of Sri Jayewardenepura で開催した。国際公募によりインドの博士課程大学院生 1 名と University of Sri Jayewardenepura の学部学生、大学院生、若手研究員 9 名のほか、University of Sri Jayewardenepura の教授 2 名、長崎大学から教授 1 名を迎えて国際交流活動を実施した。

3. 協力研究員

センターとしての研究活動をより推進するために、学内外の研究者に協力研究員を委嘱している（任期 2 年間）。2025 年度は 14 名が任命されていた（センターニュース No.156 にリスト）。

4. 公募型共同利用・共同研究拠点事業

京都大学生態学研究センターは、設立以来、生態学に関する共同研究を推進する全国共同利用施設として機能してきたが、2010 年度 4 月より、「生態学・生物多様性科学における共同利用・共同研究拠点」として新たに発足した。この拠点始動にともない、これまでの「共同利用事業」を「共同利用・共同研究拠点事業」と改めた。これは、生態学の基礎研究の推進と生態学関連の共同研究の推進を目的として、本センター以外の機関に所属する教員または研究者と本センターの教員とが協力して行う共同研究を公募するものである。公募内容は、国際共同研究、共同研究 a・b、研究集会、ワークショップ、資料利用である。

予算措置のあるものとしては、以下のとおり 2025 年度に 10 件の共同研究 a、4 件のワークショップ、2 件の研究集会を採択した。共同研究 b の採択一覧は 33-34 ページに掲載。

共同研究 a：

1) 「里山に生息するトンボ類数種の食性解析」

代表者：東川 航（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 九州支所 森林動物研究グループ）

（センターニュース No.158 に掲載予定）

2) 「硝酸・リン酸安定同位体比の同時分析を可能にする膜型パッシブサンプラーの開発」

代表者：石田 卓也（広島大学・大学院先進理工系科学研究科）

（センターニュース No.158 に掲載予定）

3) 「黒潮の窒素は亜熱帯モード水の硝酸塩プールに寄与するのか？」

代表者：堀井 幸子（水産研究・教育機構 水産資源研究所 海洋環境部 暖流第 3 グループ）

（センターニュース No.158 に掲載予定）

- 4) 「安定同位体分析による氷河生態系の窒素およびリン循環の解析」
代表者：服部 祥平（南京大学・国際同位素效应研究中心 (ICIER)）
（センターニュース No.158 に掲載予定）
- 5) 「Responses of plant circadian clocks to spatial heterogeneity in the microenvironment」
代表者：Antony Dodd（John Innes Centre-Cell & Developmental Biology）
（センターニュース No.158 に掲載予定）
- 6) 「植物群集の空間構造が調節する植食者の進化と個体群動態」
代表者：大崎 晴菜（名城大学・農学部）
（センターニュース No.158 に掲載予定）
- 7) 「安定同位体比を用いた個体間相互作用の定量的解析」
代表者：北條 賢（関西学院大学・生命環境学部）
（センターニュース No.158 に掲載予定）
- 8) 「クワズイモ（サトイモ科）が送粉者を誘導するメカニズムの解明」
代表者：高野 宏平（長野県環境保全研究所・自然環境部）
（センターニュース No.158 に掲載予定）
- 9) 「不完全な雌雄異株植物における " 性の揺らぎ " メカニズムの解明」
代表者：柴田 あかり（福井市自然市博物館）
（センターニュース No.158 に掲載予定）
- 10) 「土壌を介さないリター分解プロセスにおける窒素安定同位体比の変動」
代表者：谷川 東子（名古屋大学大学院・生命農学研究科）
（センターニュース No.159 に掲載予定）

ワークショップ：

- 1) 「安定同位体生態学測定支援ワークショップ 2025」
代表者：木庭 啓介（京都大学・生態学研究センター）
実施期日（場所）：2025 年 4 月 21 日～7 月 7 日（京大大学生態学研究センター・オンライン）
スタッフ： 3 名
参加者： 20 名
（センターニュース No.157 に掲載）
- 2) 「脱窒菌同位体比測定法ワークショップ 2025」
代表者：木庭 啓介（京都大学・生態学研究センター）
実施期日（場所）：2025 年 5 月 9 日～5 月 14 日（京大大学生態学研究センター・オンライン）
スタッフ： 4 名
参加者： 4 名
（センターニュース No.157 に掲載）

3)「安定同位体生態学ワークショップ 2025」

代表者：木庭 啓介（京都大学・生態学研究センター）

実施期日（場所）：2025 年 7 月 25 日～9 月 12 日（京都大学生態学研究センター・オンライン）

スタッフ： 5 名

参加者： 14 名

（センターニュース No.157 に掲載）

4)「若手研究者のための夏季観測プログラム in 琵琶湖」

代表者：中野 伸一（京都大学・生態学研究センター）

実施期日（場所）：2025 年 8 月 18 日～8 月 23 日（京都大学生態学センター、滋賀県近江八幡市沖島）

スタッフ： 7 名

参加者： 3 名

（センターニュース No.157 に掲載）

研究集会：

1)「海岸林がもつ生物地球化学的特徴およびその生態系機能の社会的役割に関する現地研究集会」

代表者：谷川 東子（名古屋大学大学院・生命農学研究科 森林・環境資源科学専攻）

実施期日（場所）：2025 年 10 月 18 日～10 月 19 日（休暇村 伊良湖、愛知県栽培漁業センター構内海岸林・堀切海岸林・西の浜海岸林ほか）

スタッフ： 4 名

参加者： 22 名

（センターニュース No.157 に掲載）

2)「種内・種間の個体間相互作用が駆動する適応進化：微生物・植物・動物の相互作用系」

代表者：工藤 慎一（鳴門教育大学大学院・学校教育研究科）

実施期日（場所）：2025 年 10 月 25 日～10 月 26 日（鳴門教育大学 共通研究 C 棟）

スタッフ： 3 名

参加者： 26 名

（センターニュース No.157 に掲載）

5. 生態研セミナー

このセミナーは生態学研究センターの共通セミナーとして定期的に開催。2025 年度には 16 回開催した。毎月 1 回（原則として第 3 金曜日）、通常 2 名に話題を提供していただいた。一部の講演はセンター外の登録者にオンラインによる配信を行った。センター外から 29 名の講演者があった。参加人数は各回 9 名から 68 名、延べ 305 名であった（本号 30-32 ページ）。

6. オープンキャンパス、公開授業

生態学や生態学研究センターの研究を紹介するイベントとして、オープンキャンパス 2025 を 3 月 25 日に開催した。また、理学研究科生物科学専攻と共同で生物系合同入試説明会を 4 月 19 日に開催した。

その他の講演会等は以下の通り。

- ・ 11 月 8 日 一般公開「学校で習わない生き物の不思議」（生態研にて開催 44 名参加）
- ・ 11 月 15・16 日 「びわ博フェス 2025」ワークショップ開催（来場者 372 名）
- ・ 高校生対象の講義 3 回（詳細はセンターニュース No.158 に掲載予定）

7. ニュースレターの発行

センターの活動を全国の生態学に興味を持たれている方々に知っていただくため、ニュースレターを発行した。2025 年度は第 156 号（7 月 31 日）、第 157 号（1 月 31 日）を発行した。現在、個人 108 件、機関 266 件、計 374 件に送付している。ニュースレターでは、生態学研究センターの活動のみならず、広く生態学一般の情報を提供している。

8. 共同利用施設の使用状況

- 1) 大型分析機器：安定同位体関係では、2025 年度は、2009 年度導入の炭素・窒素同位体比オンライン自動分析装置（元素分析計）、酸素・水素同位体比オンライン自動分析装置（熱分解型元素分析計）、GC/C（ガスクロ燃焼装置付き前処理装置）、LC/C（高速液体クロマトグラフ付き前処理装置）を装備した安定同位体比質量分析計 DELTA V Plus、2013 年度導入の PreCon-GasBench II（自動濃縮装置付き気体導入インターフェイス）、元素分析計、GC/C を装備した安定同位体比質量分析計 DELTA V Advantage の計 2 台が稼働している。2025 年度における利用日数はそれぞれ 51 日と 128 日、利用延べ人数は 87 人と 236 人で、このうち 55 人、165 人が学内・学外からの共同利用・共同研究であった。2025 年度の「安定同位体生態学」に関する共同利用者及び共同研究者の所属機関・部局は、学内は理学研究科、農学研究科、情報学研究科、野生動物研究センター、フィールド科学教育研究センター、学外では、神戸大学、福井県立大学、近畿大学、摂南大学、関西学院大学、（独）森林総合研究所、琵琶湖博物館などであった。

2025 年度は前年度に引き続き「安定同位体生態学ワークショップ」、「脱窒菌同位体比測定法ワークショップ」をオンラインによる説明と実際に当地での作業を行うハイブリッドで実施した。2 回目の開催となる「安定同位体生態学測定支援ワークショップ」では、同位体分析未経験者の方を対象に来所なしで郵送された試料の測定を行った。これらのワークショップでは、安定同位体生態学に関する意見交換および初心者に対する講習を行うこと、さらには発展的な内容の測定方法を共有することで、共同利用・共同研究拠点としての機能を果たすことを目的としている。また、安定同位体メーリングリストを主催し、利用に関するスケジュール調整を行うほか、研究情報の交換も行っている。さらに、新しい利用者に情報提供をするために、安定同位体生態学共同研究・安定同位体比質量分析計共同利用に関するホームページおよび SNS で情報発信を行なっている。

<https://www.ecology.kyoto-u.ac.jp/~cermass/cermass/>

<https://bsky.app/profile/stableisotopeecol.bsky.social>

<https://twitter.com/IsotopeEcology>

分子解析関係の DNA 分析システムは、PCR、リアルタイム PCR（遺伝子発現定量装置）、DNA シーケンサー、次世代シーケンサー、フローサイトメーターから構成されている。2025 年度における、これらの機器の利用人数は 34 名で、うち 10 名が学外からの共同利用であった。あわせて延べ 1745 人日の利用があった。

- 2) シンバイオトロン：シンバイオトロンは、物理・化学・生物的複合環境を人為的に制御できる大型実験設備である。本施設は、魚類などの大型水生動物の相互作用も対象とした水域研究のためのモジュール、動植物の生物間相互作用を解析する陸域研究のためのモジュールから構成される。本年度は、三栄養段階生物間相互作用、植物間コミュニケーション、植物の揮発性物質受容機構、植物誘導防衛の分子機構等に関する研究を実施した。今後もシンバイオトロンの稼動状況を高めるために、国内外を問わず、広く共同利用・共同研究の促進を図っていきたい。
- 3) 実験圃場および森林区（CER の森）・鉢棚・実験池：生態学研究センターには実験圃場（実験林園を含む）、森林区（CER の森）、鉢棚、実験池があり、センターのメンバーだけでなく全国共同利用施設としてセンター外の研究者・学生にも利用されている。実験圃場・林園、鉢棚、実験池では操作実験等が、CER の森ではできるだけ自然のままの状態での生物観察が行われている。2025 年度は、11 件の共同利用を受け入れ、センター外の利用者は 27 名であった（センター構成員の利用をのぞく）。
- 4) 琵琶湖調査船「はす」：高速調査船「はす」（全長 12.5m、総トン数 8.5 トン、巡航速度 20 ノット）は、琵琶湖における調査・実習に関わる全国共同利用に広く活用されている。主な航海・観測機器として、GPS、レーダー、オートパイロット、魚群探知機、真風向風速計、流向流速計、ジャイロコンパス、デジタル水温計、航法インターフェイス、ダビットウィンチ、アーマードケーブルを備え、CTD 観測（SEB911、RINKO-Profilers）、採水、採泥、プランクトン・ベントス採集など、高度な陸水観測を含む様々な調査・研究に対応している。本調査船の運航および共同利用の窓口は、技術職員と研究員の 2 名が担当している。
- 「はす」を用いて実施している定期観測の結果は、長期陸水モニタリング・データベースとしてセンター HP において一般公開されており、琵琶湖研究の貴重な基礎資料として活用されている。2025 年度は、琵琶湖の生態系や生物多様性に関する研究、および生物地球化学的な循環に関する研究のために利用され、総運航日数は 35 日、延べ乗船者数は 144 名、非乗船利用の延べ人数は 258 名、延べ研究課題数は 112 件であった（本号 35-37 ページ）。

9. 運営委員会・共同利用運営委員会の開催

2025 年

10 月 20 日～10 月 31 日 共同利用運営委員会（第 38 回）（メール審議）

2026 年

3 月 4 日 運営委員会（第 78 回）（オンライン開催）

3 月 4 日 共同利用運営委員会（第 39 回）（オンライン開催）

プロジェクト

2025 年度の、文部科学省科学研究費などによるプロジェクトをまとめました。研究者は代表者を筆頭とし、センタースタッフは下線で示し、センタースタッフ以外の研究分担者については省略しています。

工藤洋・本庄三恵他

変動環境下での頑健な応答を支える長期クロマチン記憶

2021-2025 日本学術振興会 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（特別推進研究）

佐藤拓哉他

寄生虫による宿主行動操作の分子機構解明

2024-2028 日本学術振興会 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（学術変革領域研究（A））

彦坂幸毅（東北大学）・木庭啓介他

炭素貯留を最大にする最適な森林の予測

2021-2025 日本学術振興会 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（学術変革領域研究（A））

塩尻かおり（龍谷大学）・山尾僚他

生物間相互作用による BVOC の改変

2023-2027 日本学術振興会 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（学術変革領域研究（A））

勝間進（東京大学）・佐藤拓哉他

共進化表現型創発の運営

2024-2028 日本学術振興会 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（学術変革領域研究（A））

高林純示他

植物が持つ揮発性物質センシング力の分子機序と野外における防御機能の実態

2022-2026 日本学術振興会 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤研究（A））

中野伸一他

湖沼の深水層に卓越する未知の有機物循環系の解明

2022-2025 日本学術振興会 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤研究（A））

木庭啓介他

動的マルチオミクス解析による土壌有機物分解機構の解明

2022-2025 日本学術振興会 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤研究（A））

佐藤拓哉他

生態系における「病原体循環」の理論・実証・応用

2023-2026 日本学術振興会 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤研究（A））

山尾僚他

菌根による生態系レジームの再構築

2025-2028 日本学術振興会 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤研究（A））

内海俊介（北海道大学）・山尾僚他

平行的な都市進化が駆動する植物 - 土壌相互作用と生物的抵抗性への波及効果

2024-2027 日本学術振興会 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤研究（A））

下川房男（香川大学）・石田厚他

水分 / 栄養物質動態用マイクロセンサの開発による樹木個体の生理計測システムの構築

2024-2027 日本学術振興会 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤研究（A））

松田一希（京都大学野生動物研究センター）・半谷吾郎他

大型動物と森林空洞化の実態解明と将来予測

2024-2027 日本学術振興会 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤研究（A））

半谷吾郎他

料理がヒトの食性の進化に与えた影響の解明

2023-2026 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（B））

石田厚他

樹木フェノロジーの種多様性に基づいた世界自然遺産小笠原の温暖化森林影響評価

2024-2026 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（B））

太田民久（富山大学）・佐藤拓哉他

回遊魚の森－川－海ネットワーク構造推定のための大規模な同位体地図の作成とその応用

2024-2027 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（B））

黒岩恵（東京農工大学）・木庭啓介他

オミクス情報と物質循環の照合を可能にする経路別N₂Oフラックス定量法の開発と実践

2023-2026 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（B））

岡田昌也（九州大学）・木庭啓介他

「科学者のような学び方」を学ばせる計算論的ラーニングアナリティクス基盤

2023-2027 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（B））

立木佑弥（東京都立大学）・山尾僚

植物の血縁認識がもたらす利他的ふるまいと、個体群構造の自己組織化

2023-2026 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（B））

松井健二（山口大学）・高林純示・本庄三恵他

植物が揮発性化学物刺激を「記憶」し、次の刺激で「想起」するメカニズムの解明

2023-2026 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（B））

山本裕基（関西大学）・高林純示他

農業害虫の食害抑制による貧困緩和：警報フェロモン成分を用いた防除策の社会実装

2023-2026 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（B））

山口保彦（琵琶湖環境科学センター）・木庭啓介他

細菌由来サブミクロン粒子が生物ポンプを駆動する可能性の探索

2024-2026 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（B））

布施泰朗（京都工芸繊維大学）・中野伸一他

貧酸素水塊が生み出すラジカルが未知の物質循環を駆動する

2025-2027 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（B））

後藤晶子他

シダ植物の葉ワックスを構成する化合物についての有機地球化学的研究

2023-2026 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C））

本庄三恵

ウイルスの持続感染に対する植物の繁殖戦略

2024-2026 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C））

坂田有紀子（都留文科大学）・石田厚他

根呼吸と植物の水利用特性の linkage: 陸上生態系炭素循環モデルの精度向上を目指して

2023-2027 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C））

坂田剛（北里大学）・石田厚他

樹木の炭素獲得戦略に多様性をもたらすルビスコとポリアミンの相補的な働き

2024-2027 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C））

伊藤公一（同志社大学）・山内淳他

敵対的訪花者が花の性表現の進化に及ぼす影響の理論的解明

2025-2029 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C））

半谷吾郎他

霊長類学史を初期霊長類学者資料に探る

2023-2025 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（挑戦的研究（萌芽））

佐藤拓哉他

延長された表現型のゲノム進化機構：宿主から寄生者への大規模遺伝子水平伝播の検証

2024-2025 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（挑戦的研究（萌芽））

石田厚他

世界自然遺産である小笠原における持続可能な観光管理と生態系保全との両立手法の開発

2025-2026 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（挑戦的研究（萌芽））

酒井章子（総合地球環境学研究所）・古川沙央里他

栽培化は種子微生物叢をどう変化させたか：東アジア起源のダイズを材料とした検討

2022-2026 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B）））

東山哲也（東京大学）・工藤洋他

植物生殖の鍵分子ネットワーク

2022-2028 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（国際共同研究加速基金（国際先導研究））

石田厚他

温暖化による降水量変動がタイ熱帯季節林の衰退に及ぼす影響評価

2023-2026 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（海外連携研究）

清水華子

植物の季節応答に関わるエンハンサーの探索

2024-2025 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（研究活動スタート支援）

古川沙央里

共生的なハナホソガは宿主を共有する寄生的なハナホソガによって地域絶滅するのか？

2023-2027 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（若手研究）

篠原直登

植物と菌根菌共生から紐解く、植物群集の決定要因の緯度クライн

2024-2026 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（若手研究）

横溝匠

昆虫の潮間帯進出の鍵：トランスオミクス解析によって探る概潮汐リズムの発振機構

2024-2026 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（若手研究）

樋口裕美子

葉の形は昆虫の寄主範囲を規定するか？多様な加工様式を示すオトシブミ科での検討

2024-2026 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（若手研究）

目戸綾乃

多価不飽和脂肪酸が野生動物の生活史意思決定に及ぼす影響の解明

2025-2027 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（若手研究）

大竹裕里恵

湖沼食物網に果たす沿岸域の動物プランクトンによる陸域起源物質輸送の役割

2025-2027 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（若手研究）

小野誠仁

山岳氷河に形成される暗色氷の形成プロセスの解明

2025-2027 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（若手研究）

篠原直登

極限環境から紐解く、群集構築ルールのストレス勾配に沿った変化

2023-2025 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（特別研究員奨励費 PD）

小野誠仁

雪氷生態系における窒素循環解明とモデル構築による地球温暖化への応答予測研究

2024-2026 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（特別研究員奨励費 PD）

野口幹仁

植物と根部真菌群集の相互作用に基づいた植物－土壌フィードバックのメカニズムの解明

2023-2025 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（特別研究員奨励費）

木庭啓介・蔣夢琦

同位体分析を用いた水中亜硝酸塩蓄積のメカニズムの解明

2023-2025 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（特別研究員奨励費）

井上輝紀

種子散布者の糞内細菌が種子の定着に与える効果

2024-2026 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（特別研究員奨励費）

朝倉日向子

光サイクルは食物網構造を規定するのか？

2025-2027 日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（特別研究員奨励費）

佐藤拓哉

寄生生物による生物機能創発機構の解明と制御への基盤研究

2022-2026 科学技術振興機構 (JST) 創発的研究支援事業

佐藤拓哉

寄生生物による生物機能創発機構の解明と制御への基盤研究

2025-2028 科学技術振興機構 (JST) 創発的研究支援事業・研究環境整備支援

大竹裕里恵

プランクトン AI 画像判別計数システムによる湖沼・ダム湖生態系監視手法の確立と展開

2024-2026 環境再生保全機構 環境研究総合推進費

その他、企業との共同研究 2 件、学術指導 1 件が進められた。

著作リストの収録内容

1. 第35巻著作リストには生態学研究センターの構成員（教員、研究員、大学院生、研究生）および連携教員、協力研究員が、2025年（2025年1月1日から2025年12月31日まで）に印刷物あるいは電子出版物として発表した著作を、原則として印刷物としての発表を優先して収録します。（当センターの業績目録を「年度」ではなく「年」で区切るのは、英文の原著論文や本の場合、出版された「月」までは記載されず、発表された年度を判別することが困難なためです。）

ただし、業績目録作成時には発表年が確定していない印刷中（in press）のもの、あるいは印刷物としての発表年が2026年以降になるものでも、電子ジャーナルに2025年に掲載が確定しているものにつきましても、電子出版物としての発表を優先します。その場合、DOI（Digital Object Identifier：電子化された著作物につけられる識別コード）をつけて2025年の業績として収録することになります。（業績の早期掲載と収録漏れを防ぐためです。DOIにより文献検索が可能です。）

2. 配列は、(A) 教員 (B) 研究員・大学院生・研究生 (C) 協力研究員 のそれぞれについて、名前のアルファベット順です。教員については、著作の種別（「査読付き英文論文（総説含む）」、「その他出版物（著書・日本語論文・エッセイなど）」、「講演（学会発表・アウトリーチ活動など）」、「特許」）ごとに示しています。

3. 協力研究員については、著作リストに載せる・載せないは、各研究員の自由意志とし、「載せてもよい」と判断された方の、そして判断された著作だけを収録しています。

ご協力ありがとうございました。

A. Faculty 教員

査読付き英文論文（総説含む）

HANYA, Goro 半谷 吾郎（准教授）

- Lee W, He T, Kurihara Y, Shiroishi I, Ushida K, Tsuchida S, Hanya G (2025) Seasonal adaptation of the gut microbiome in Japanese macaques: Linking gut microbiome shifts with fermentative function. *Ecology and Evolution* 15(9): e72076. DOI: 10.1002/ece3.72076.
- Nakabayashi M, Kanamori T, Matsukawa A, Tangah J, Tuuga A, Malim PT, Bernard H, Ahmad AH, Matsuda I, Hanya G (2025) Behavioral response of Bornean ungulates, including bearded pigs and sambar deer, to anthropogenic disturbance in Sabah, Malaysia. *Global Ecology and Conservation* 59: e03580. DOI: 10.1016/j.gecco.2025.e03580.
- Hanya G, Agetsuma N, Agetsuma-Yanagihara Y, Oi T, Kondo T, Tabuse Y, Suzumura T, He T, Honda T, Ohta T, Kinoshita K (2025) Sodium availability and fecal aldosterone concentration of wild and captive Japanese macaques and sika deer. *Mammal Study* 50(4). DOI: 10.3106/ms2024-0048.

HONJO, Mie 本庄 三恵（准教授）

- Otsubo M, Nishio H, Kudoh H, Honjo MN (2025) Turnip Mosaic Virus Infection in a Perennial *Arabidopsis* Reduces Aphid Fecundity in the Natural Environment. *Molecular Ecology* 34(22): e70140. DOI: 10.1111/mec.70140.
- Muranaka T, Yumoto G, Honjo MN, Nagano AJ, Zhou J, Kudoh H (2025) Coincidence of the threshold temperature of seasonal switching for diel transcriptomic oscillations and growth. *Plant and Cell Physiology* 66(10): 1412-1425. DOI:10.1093/pcp/pcaf092.
- Shibata A, Yumoto G, Shimizu H, Honjo MN, Kudoh H (2025) Flower movement induced by weather-dependent tropism satisfies attraction and protection. *Nature Communications* 16(1): 4132. DOI: 10.1038/s41467-025-59337-6.
- Honjo MN, Emura N, Kamitani M, Kudoh H (2025) Cold suppresses virus accumulation and alters the host transcriptomic response in the turnip mosaic virus – *Arabidopsis halleri* system. *Plant and Cell Physiology* 66(4): 596–615. DOI: 10.1093/pcp/pcaf010.

ISHIDA, Atsushi 石田 厚（教授）

- Mori S, Kurosawa Y, Maruyama Y, Ferrio J.P, Kikuchi S, Ishida A, Yamaji K (2025) Cryptic Japanese maple species exhibit different drought tolerance, suggesting reproductive isolation. *Ecological Research* 40(1): 44-55. DOI: 10.1111/1440-1703.12512.

KOBA, Keisuke 木庭 啓介（教授）

- Kobayashi K, Nishina K, Fukushima K, Onishi Y, Makabe A, Oshiki M, Koba K, Okabe S (2025) Oxygen isotope fractionation during anaerobic ammonium oxidation by the marine representative *Candidatus Scalindua* sp. *The ISME Journal* 19(1): wraf115. January 2025. DOI: 10.1093/ismejo/wraf115.
- Chen C - J, Liu X - Y, Hu C - C, Xu S - Q, Wang X - W, Mao R, Koba K (2025) Inorganic nitrogen nutrition in boreal plants is underestimated and insensitive to environmental changes. *Earth's Future* 13(5): e2024EF005723. DOI: 10.1029/2024EF005723.
- Funakawa K, Suzumura T, Koba K (2025) Stable isotope analysis reveals individual variations in feeding habits among wild Japanese macaques. *Ecological Research* 40(4): 523-538. DOI: 10.1111/1440-1703.12547.
- Nguyễn CT, Iwata T, Ikeda Y, Yano M, Makabe A, Koba K (2025) Elucidating the isotopic dynamics of nitrate and ammonium in the Fuji River using a Lagrangian approach: stable nitrate and fractionating ammonium. *Progress in Earth and Planetary Science* 12(1): 91. DOI: 10.1186/s40645-025-00760-0.
- Jiang M, Ishikawa T, Takatsudo K, Osaka K, Maung NL, Arai H, Makabe A, Tokuchi N, Hayashi K, Koba K (2025) Enhancing nitrogen status evaluation using qualitative indicators: a case study in Matsushima Bay, Japan. *Progress in Earth and Planetary Science* 12(1): 114. DOI: 10.1186/s40645-025-00787-3.

KUDOH, Hiroshi 工藤 洋（教授）

- Noyori T, Mori S, Oya S, Nishio H, Kudoh H, Inagaki S, Kakutani T (2025) H3K4me2 orchestrates H2A.Z and Polycomb repressive marks in *Arabidopsis*. Nature Communications 16(1). November 26, 2025. DOI:10.1038/s41467-025-66645-4.
- Muranaka T, Yumoto G, Honjo MN, Nagano AJ, Zhou J, Kudoh H (2025) Coincidence of the threshold temperature of seasonal switching for diel transcriptomic oscillations and growth. October 22, 2025. Plant and Cell Physiology 66(10): 1412-1425. DOI:10.1093/pcp/pcaf092.
- Otsubo M, Nishio H, Kudoh H, Honjo MN (2025) Turnip Mosaic Virus Infection in a Perennial *Arabidopsis* Reduces Aphid Fecundity in the Natural Environment. October 14, 2025. Molecular Ecology 34(22): e70140. DOI: 10.1111/mec.70140.
- Kudoh H, Sakane M, Marhold K, Shimizu-Inatsugi R, Shimizu KK, Fukaki H(2025) Cartwheel aerenchyma in *Cardamine amara* as a model of schizogenous tissue formation in plants. August 15, 2025. iScience 28(8). DOI: 10.1016/j.isci.2025.113106.
- Shimizu H, Nishio H, Kudoh H (2025) Plant ADH1 promoter acts as an H3K27me3-associated hyper-long cold-responsive promoter. The Plant Journal 122(5): e70248. DOI: 10.1111/tpj.70248.(Journal)
- Shibata A, Yumoto G, Shimizu H, Honjo MN, Kudoh H (2025) Flower movement induced by weather-dependent tropism satisfies attraction and protection. May 3, 2025. Nature Communications 16(1): 4132. DOI: 10.1038/s41467-025-59337-6.
- Honjo MN, Emura N, Kamitani M, Kudoh H (2025) Cold suppresses virus accumulation and alters the host transcriptomic response in the turnip mosaic virus-*Arabidopsis halleri* system. January 18, 2025. Plant and Cell Physiology 66(4): 596–615. DOI: 10.1093/pcp/pcaf010.

LEE, Wanyi 李 婉儀（特定助教）

- Lee W, He T, Kurihara Y, Shiroishi I, Ushida K, Tsuchida S, Hanya G (2025) Seasonal adaptation of the gut microbiome in Japanese macaques: Linking gut microbiome shifts with fermentative function. Ecology and Evolution 15(9): e72076. DOI: 10.1002/ece3.72076.

NAKANO, Shin-ichi 中野 伸一（教授）

- Fernandes C, Haber M, Layoun P, Chiriac M-C, Bulzu P-A, Ghai R, Kasalicky V, Shabarova T, Grossart H-P, Woodhouse J, Piwosz K, Alonso C, Zanetti J, Hamilton DP, Ngochera M, Nakano S, Okazaki Y, Salcher MM (2025) Ecophysiology and global dispersal of the freshwater SAR11-IIIb genus *Fontibacterium*. Nature Microbiology 10(9): 2194–2206. DOI: 10.1038/s41564-025-02091-8.
- Cheng WH, Miki T, Ido M, Yoneya K, Matsui K, Yokokawa T, Yamanaka H, Nakano S (2025) Advancing marker-gene-based methods for prokaryote-mediated multifunctional redundancy: exploring random and non-random extinctions in a catchment. Freshwater Biology 70(3): e70020. DOI: 10.1111/fwb.70020.
- Takasu H, Tani Y, Nakano S (2025) Growth and grazing mortality of *Synechococcus* during their summer bloom in a brackish hypertrophic lake (Lake Sanaru, Japan). Limnology 26: 263-269. DOI: 10.1007/s10201-025-00783-y.

OTAKE, Yurie 大竹 裕里恵（助教）

- Hairston Jr NG, Ohtsuki H, Otake Y, Urabe J (2025) First report of *Daphnia* in Hawai‘i: *D. obtusa* occurrence and genetic affinities. Journal of Plankton Research 47(5): fbaf051. DOI:10.1093/plankt/fbaf051.
- Tsuzuki Y, Ohsaki H, Kawaguchi YW, Suzuki S, Harada S, Otake Y, Shinohara N, Katsuhara KR (2025) Nationwide diversity of symbolic “city flowers” in Japan is increasing. Ecological Research 40(4): 463-474. DOI: 10.1111/1440-1703.12540.
- Urabe J, Wakana I, Ohtsuki H, Sakata MK, Otake Y, Ichige R, Kuwae M, Minamoto T (2025) Reconstruction of marimo population dynamics over 200 years using molecular markers and fossil plankton remains. Environmental DNA 7 (2): e70085. DOI: 10.1002/edn3.70085.

Otake Y, Kurokawa M, Maruoka N, Nakagawa M, Makino W, Urabe J (2025) Taxonomic re-evaluation of the *Brachionus calyciflorus* species complex (*Rotifera*) in Japanese freshwaters. *Limnology* 26 (1): 153-167. DOI: 10.1007/s10201-024-00768-3.

SATO, Takuya 佐藤 拓哉 (教授)

Ida S, Sato T, Sueyoshi M, Kishi D, Ohta T (2025) Construction of an isoscape of the strontium isotope ratios of the entire Nagara River in central Japan. *Limnology* 26(3): 549-556. DOI: 10.1007/s10201-025-00787-8.

Ueda R, Kanaiwa M, Terui A, Takimoto G, Sato T (2025) Seasonal timing of ecosystem linkage mediates life - history variation in a salmonid fish population. *Ecology* 106(5): e70114. DOI: 10.1002/ecy.70114.

Tanaka R, Kunishima T, Hirashima K, Ohta T, Yoshimizu C, Tayasu I, Uno H, Sato T (2025) Inter- and intraspecific variation in the degree of marine-derived resources of amphidromous fishes. *J Fish Biol* 107(3): 851-865. DOI: 10.1111/jfb.70084.

Chiu M-C, Tsai C-T, Lee P-C, Wu W-J, Shiao S-F, Sato T, Sakura M (2025) Not juvenilization: parasitic intersexuality in horsehair worm-infected insect hosts occurs only after host sexual differentiation. *Annals of the Entomological Society of America* 118(5): 397-408. DOI: 10.1093/aesa/saaf025.

Wang C-W, Chen H-W, Sato T, Nakazawa T (2025) When can multiple parasites with complex life cycles coexist under conflicts of host manipulation?. *International Journal for Parasitology* 55(14):771-781. DOI: 10.1016/j.ijpara.2025.08.012.

Shida T, Sato T (2025) Hierarchical organization of life-history variation in a salmonid fish across riverscape: Relevance of seasonal growth opportunity and maturation decision window. *J Anim Ecol* 94(12) :2461-2475. DOI: 10.1111/1365-2656.70141.

YAMAUCHI, Atsushi 山内 淳 (教授)

Yamauchi A (2025) Dynamic properties of Lotka–Volterra systems corresponding to the colonization model. *Mathematical Bioscience* 387: 109500. DOI: 10.1016/j.mbs.2025.109500.

YAMAWO, Akira 山尾 僚 (教授)

Kikuchi K, Koishi H, Okuda K, Ikeda H, Sasabe M, Yamawo A (2025) Associational effects of closely related insect galls on rodent predators mediated by predator learning. *Proceedings of the Royal Society B* 292: 20252546. DOI: 10.1098/rspb.2025.2546.

Sasaki H, Yamawo A (2025) Small first leaves promote subsequent leaf development in *Padus grayana*. *Ecology* 106(11): e70253. DOI: 10.1002/ecy.70253.

Inoue T, Okuda K, Sakamoto Y, Miyamoto R, Kobayashi H, Yokoyama M, Yamawo A (2025) Seed deposition patterns reflect the foraging behavior and food habits of mammalian seed dispersers. *Acta Oecologica* 2025: 104111. DOI: 10.1016/j.actao.2025.104111. 研究ハイライト , 京都大学生態学研究センターニュース 157: 10.

Ito K, Ohsaki H, Novoplansky A, Hirota H, Yamawo A (2025) Integrated above- and below-ground interplant cueing of salt stress. *Plant signaling & Behavior* 20(1): 2542560. DOI: 10.1080/15592324.2025.2542560.

Ohsaki H, Yamawo A, Tachiki Y (2025) The spatial aggregation of phytophagous insects driven by the evolution of preference for plant chemicals. *Journal of Theoretical Biology*: 112094. DOI: 10.1016/j.jtbi.2025.112094.

Tomizuka H, Yamawo A, Tachiki Y (2025) Altruism or Selfishness: Floral behavior based on genetic relatedness with neighboring plants. *Journal of Evolutionary Biology* 38(4): voaf015. DOI: 10.1093/jeb/voaf015.

Yamawo A, Hagiwara T, Yoshida S, Ohno M, Nakajima R, Mori Y, Hayashi T, Yamagishi H, Shiojiri K (2025) Interspecific variations in interplant communication and ecological characteristics in trees. *Ecology and Evolution* 15(1): e70876. DOI: 10.1002/ece3.70876.

その他出版物（著書・日本語論文・エッセイなど）

HANYA, Goro 半谷 吾郎（准教授）

Lee Wanyi, 半谷吾郎 (2025) 霊長類の腸内細菌叢を形成する生態学的・社会的要因. 霊長類研究. DOI: 10.2354/psj.41.005.

大坂桃子, 山越言, 平木雅, 半谷吾郎 (2025) 屋久島におけるニホンザル農作物被害問題の所在-住民の被害認識に注目して-. 霊長類研究. DOI: 10.2354/psj.41.002.

HONJO, Mie 本庄 三恵（准教授）

本庄三恵 (2025) 自然環境下における植物-ウイルス相互作用の季節性. BSJ Review 16: 184-195. DOI: 10.24485/bsj-review.16c5.00289.

本庄三恵, 大坪雅, 神谷麻梨, 工藤洋 (2025) 自然生態系における植物とウイルスの相互作用. 感染生理談話会論文集 第 59 号. p80-88.

ISHIDA, Atsushi 石田 厚（教授）

坂田剛, 石田厚 (2025) C3 植物の葉の種特性と協調したルビスコの性質. 光合成研究. 第 35 巻 第 1 号 (第 100 号): 18-26.

石田厚 (2025) 世界自然遺産小笠原樹木の光合成酵素ルビスコの CO₂ 固定特性の種多様性と進化的制約. 研究ハイライト, 京都大学生態学研究センターニュース 155: 12.

KOBA, Keisuke 木庭 啓介（教授）

Hayashi K, Arai H, Umezawa Y, Onodera T, Matsubae K, Koba K (2025) Prevention Is the Best Strategy to Solve Coastal Eutrophication. Environmental Science & Technology 59(19): 9366–9368. DOI: 10.1021/acs.est.5c02456.

KUDOH, Hiroshi 工藤 洋（教授）

本庄三恵, 大坪雅, 神谷麻梨, 工藤洋 (2025) 自然生態系における植物とウイルスの相互作用. 感染生理談話会論文集. 第 59 号. p80-88.

工藤洋 (2025) 機械学習を用いた野外環境下における植物のフェノタイピング. 研究ハイライト, 京都大学生態学研究センターニュース 155: 13.

LEE, Wanyi 李 婉儀（特定助教）

Lee W, Hanya G (2025) 霊長類の腸内細菌を形成する生態学的・社会的要因. 霊長類研究 41(1). DOI: 10.2354/psj.41.005.

Lee W (2025) Seasonal Adaptation of the Gut Microbiome in Japanese Macaques. 研究ハイライト, 京都大学生態学研究センターニュース 156: 6.

OTAKE, Yurie 大竹 裕里恵（助教）

大竹裕里恵 (2025) カラー図解 水の中の小さな美しい生き物たち-小型ベントス・プランクトン百科-. 仲村 康秀・山崎 博史・田中 隼人 編集:「輪形動物門」,「枝角類」.

SATO, Takuya 佐藤 拓哉（教授）

佐藤拓哉, 中西勇太 (2025) 「湖」へ回遊したサケ科魚類における回遊パターンの多様化と大型化. 研究ハイライト, 京都大学生態学研究センターニュース 155: 15.

佐藤拓哉, 澤田侑那 (2025) 寄生虫ハリガネムシの「延長された表現型」に対する進化的トラップの可能性. 研究ハイライト, 京都大学生態学研究センターニュース 155: 19.

佐藤拓哉, 上田るい (2025) 森と川の季節的なつながりがアマゴの多様な生き方を育む. 研究ハイライト, 京都大学生態学研究センターニュース 156: 19.

佐藤拓哉, 田中良輔 (2025) 海と川を行き来する魚は「海らしさ」を失いながらも海由来の物質を川へ届ける. 研究ハイライト, 京都大学生態学研究センターニュース 156: 21.

YAMAUCHI, Atsushi 山内 淳 (教授)

山内 淳 (2025) 個体群増殖. In: 理論生物学事典 (巖佐庸ほか 編). 朝倉書店.

講演 (学会発表・アウトリーチ活動など) ○: 招待講演

HANYA, Goro 半谷 吾郎 (准教授)

南川未来, Pierre Philippe MBEHANG NGUEMA, 土田さやか, 牛田一成, 半谷吾郎 (2025) 「野生ゴリラとチンパンジーの腸内細菌による発酵能力の差」. 第 72 回日本生態学会大会. 2025 年 3 月. 札幌市.

渡邊彩音, 戸丸信弘, 半谷吾郎, 中川弥智子 (2025) 「ニホンザルの地域絶滅はヤマモモの実生更新に影響を与えるか? - 種子散布距離の比較 -」. 第 72 回日本生態学会大会. 2025 年 3 月. 札幌市.

金原蓮太郎, 角田史也, 香田啓貴, 松田一希, 半谷吾郎 (2025) 「屋久島の野生ニホンザルにおいて鳴き交わしが生じやすい状況とペアの検討」. 第 41 回日本霊長類学会大会. 2025 年 7 月. 東京都新宿区.

南川未来, リーワンイ, 半谷吾郎 (2025) 「宿主の種と環境要因, 腸内細菌叢により強く影響するのはどちらか - タイワンザルとニホンザルの比較研究 -」. 第 41 回日本霊長類学会大会. 2025 年 7 月. 東京都新宿区.

半谷吾郎, 揚妻直樹, 揚妻 - 柳原芳美, 大井徹, 近藤崇, 田伏良幸, 鈴木崇文, HE Tianmeng, 本田剛章, 太田民久, 木下こづえ (2025) 「ナトリウムの利用可能性と野生および飼育ニホンザルとニホンジカの糞中アルドステロン濃度」. 第 41 回日本霊長類学会大会, 2025 年 7 月, 東京都新宿区.

角田史也, 福田滯李, 亀田果夏, 金原蓮太郎, 仲渡千宙, 佐竹まどか, 手塚詩織, 半谷吾郎 (2025) 「ヤクシマザルによる花の食害がヤブツバキの結実に与える影響」. 第 41 回日本霊長類学会大会, 2025 年 7 月, 東京都新宿区.

Negin Eslamibidgoli, Wanyi Lee, Hiroyuki Tanaka, Goro Hanya (2025) "Sex Identification in The Raccoon Dog (*Nyctereutes procyonoides*) Using Genetic Tools". 11th Congress of the East Asian Federations of Ecological Societies. July, 2025. Tokyo.

Fumiya Kakuta, Miori Fukuda, Haruka Kameda, Rentaro Kimpara, Chihiro Nakato, Madoka Satake, Shiori Tezuka, Goro Hanya (2025) "Influence of flower predation by Yakushima macaques on the reproduction of *Camellia japonica*". 11th Congress of the East Asian Federations of Ecological Societies. July, 2025. Tokyo.

Ayane Watanabe, Nobuhiro Tomaru, Goro Hanya (2025) "Does the local extinction of Japanese macaques affect the seed dispersal distance of *Morella rubra* ?". 11th Congress of the East Asian Federations of Ecological Societies. July, 2025. Tokyo.

Rentaro Kimpara, Fumiya Kakuta, Hiroki Koda, Ikki Matsuda, Goro Hany (2025) "Machine learning of individual identification and age-class classification of wild Japanese macaque vocalizations using mel spectrograms". 11th Congress of the East Asian Federations of Ecological Societies. July, 2025. Tokyo.

角田史也, 佐竹まどか, 亀田果夏, 仲渡千宙, 手塚詩織, 金原蓮太郎, 南川未来, 榊原未桜, Negin Eslamibidgoli, 柴田尚輝, 伊勢上さくら, 福田滯李, 半谷吾郎 (2025) 「サルによる食害がツバキの結果に与える影響」. 2025 年度 (第 57 回) 種生物学シンポジウム. 2025 年 12 月. 八王子市.

HIGUCHI, Yumiko 樋口 裕美子 (准教授)

樋口裕美子. 「葉の形状にまつわる生物間相互作用」. 京都大学生態学研究センター研究集会「種内・種間の個体間相互作用が駆動する適応進化: 微生物・植物・動物の相互作用系」. 2025 年 10 月 25-26 日. 鳴門教育大学.

- 本庄三恵, 工藤洋. 「自然環境下における植物のストレス応答遺伝子の発現に対するウイルス感染の影響」. 第 57 回種生物学シンポジウム. 2025 年 12 月 20 日. 八王子. ポスター発表.
- 大坪雅, 西尾治幾, 工藤洋, 本庄三恵. 「多年生草本ハクサンハタザオへのカブモザイクウイルス感染は媒介昆虫アブラムシを減少させる」. 第 57 回種生物学シンポジウム. 2025 年 12 月 19-21 日. 八王子. ポスター発表.
- 吉田直史, 工藤洋, 本庄三恵. 「ウイルス長期感染による宿主植物の環境応答性の変化」. 東北植物学会第 15 回大会. 2025 年 12 月 12-13 日. 秋田. ポスター発表.
- Honjo MN. "Field transcriptome reveals persistent interactions between virus and plant host in a seasonal environment". International Symposium-Bridging Multi-omics and Ecology: From Molecules to Ecosystems-. Seoul, Korea. December 8, 2025.
- 本庄三恵. 「植物と目に見えない微生物の不思議な関係」. 京大ウィークス. 2025 年 11 月 8 日. 京都大学生態学研究センター.
- 本庄三恵, 吉田直史, 工藤洋. 「ウイルス感染によるアントシアニン蓄積阻害は冬季ストレス耐性に影響を与えるのか?」. 日本植物学会第 89 回大会. 2025 年 9 月 18 日 -20 日. 福岡. 口頭発表.
- 吉田直史, 工藤洋, 本庄三恵. 「ウイルス感染が宿主ハクサンハタザオの低温 + 強光ストレス耐性の誘導速度低下を引き起こす」. 日本植物学会第 89 回大会. 2025 年 9 月 18 日 -20 日. 福岡. 口頭発表.
- 工藤洋, 湯本原樹, 西尾治幾, 村中智明, 杉阪次郎, 本庄三恵. 「葉寿命可塑性の季節スイッチング」. 日本植物学会第 89 回大会. 2025 年 9 月 18 日 -20 日. 福岡. シンポジウム口頭発表.
- 湯本原樹, 西尾治幾, 本庄三恵, 工藤洋. 「アブラナ科常緑多年草ハクサンハタザオの季節依存的な葉寿命制御におけるヒストン修飾解析」. 日本植物学会第 89 回大会. 2025 年 9 月 18 日 -20 日. 福岡. 口頭発表.
- 清水華子, 西尾治幾, 本庄三恵, 工藤洋. 「季節応答性エンハンサー領域の探索」. 日本植物学会第 89 回大会. 2025 年 9 月 18 日 -20 日. 福岡. ポスター発表.
- 守屋健太, 清水華子, 上原晋, 杉阪次郎, 得津隆太郎, 嶋田知生, 相原悠介, 深城英弘, 野元美佳, 多田安臣, 石崎公庸, 本庄三恵, 工藤洋. 「シロイヌナズナ近縁種の野外トランスクリプトームから見出した季節性温度応答遺伝子 STTP の機能」. 日本植物学会第 89 回大会. 2025 年 9 月 18 日 -20 日. 福岡. 口頭発表.
- 守屋健太, 清水華子, 杉阪次郎, 相原悠介, 深城英弘, 石崎公庸, 松林嘉克, 本庄三恵, 工藤洋. 「ハクサンハタザオ自然集団の毎週トランスクリプトームから見出した季節応答性遺伝子 STTP の機能」. 第 42 回日本植物バイオテクノロジー学会 (神戸) 大会. 2025 年 9 月 5 日 -7 日. 神戸大学. 口頭発表.
- 本庄三恵. 「自然生態系における植物とウイルスとの相互作用」. 令和 7 年度 (第 59 回) 植物感染生理談話会. 2025 年 9 月 3-5 日. 鳥取大学. 口頭発表.
- 本庄三恵. 「自然生態系における植物とウイルスの相互作用の季節性」. ニガウリの会. 2025 年 8 月 23 日. 京都. 口頭発表.
- Otsubo M, Nishio H, Kudoh H, Honjo MN. "Turnip mosaic virus infection suppresses aphid fecundity by altering physiology of its host, *Arabidopsis halleri*". 2025 Annual Conference of the Canadian Society for Ecology and Evolution Sherbrooke, QC, Canada. July 9, 2025. 口頭発表.
- Honjo MN, Emura N, Kamitani M, Kudoh H. "Seasonality of virus-plant interaction during the long-term infection in a natural environment". 2025 Annual Conference of the Canadian Society for Ecology and Evolution Sherbrooke, QC, Canada. July 8, 2025. ポスター発表.
- Kudoh H, Shibata A, Shimizu H, Honjo MN. "Weather-dependent tropism satisfies pollinator attraction and floral protection in a perennial *Arabidopsis* flower". Cold Spring Harbor Asia Conference on Plant Reproductive Development and Genomics. Awaji, Japan. May 18-22, 2025.
- 本庄三恵, 吉田直史, 工藤洋. 「ウイルス感染によるハクサンハタザオの冬季ストレス耐性とアントシアニン蓄積への影響」. 第 72 回日本生態学会大会. 2025 年 3 月 15 日 -18 日. 札幌. 口頭発表.
- 工藤洋, 本庄三恵, 西尾治幾, 村中智明, 湯本原樹, 杉阪次郎. 「10 年毎週トランスクリプトーム: ハクサンハタザオにおける季節的遺伝子発現の年間変動」. 第 72 回日本生態学会大会. 2025 年 3 月 15 日 -18 日. 札幌. 口頭発表.

- Yumoto G, Nishio H, Muranaka T, Sugisaka J, Honjo MN, Kudoh H. "Cessation of leaf senescence in winter and subsequent leaf fate in *Arabidopsis halleri*". The 72nd Annual Meeting of the Ecological Society of Japan. 2025 年 3 月 15 日 -18 日 . 札幌 . シンポジウム .
- Yoshida N, Morinaga S, Hikosaka K. "Altitudinal divergence of cold tolerance in evergreen herb, *Arabidopsis halleri*" The 72nd Annual Meeting of the Ecological Society of Japan. 2025 年 3 月 15 日 -18 日 . 札幌 . シンポジウム .
- Otsubo M, Nishio H, Kudoh H, Honjo MN. "Turnip mosaic virus infection on *Arabidopsis halleri* suppresses aphid fecundity by altering host physiology in the natural habitat". The 72nd Annual Meeting of the Ecological Society of Japan. 2025 年 3 月 15 日 -18 日 . 札幌 . 口頭発表 .
- 小茂尻真凜, 吉田直史, 工藤洋, 本庄三恵. 「ハクサンハタザオ自然集団におけるウイルス感染が花形質と繁殖成功に与える影響」. 第 72 回日本生態学会大会 . 2025 年 3 月 15 日 -18 日 . 札幌 . ポスター発表 .
- 守屋健太, 清水華子, 上原晋, 湯本原樹, 杉阪次郎, 得津隆太郎, 嶋田知生, 野元美佳, 多田安臣, 西尾治幾, 本庄三恵, 工藤洋. 「ハクサンハタザオの野外毎週トランスクリプトームデータから見出された新規温度応答遺伝子 STTP の解析」. 第 66 回日本植物生理学会年会 . 2025 年 3 月 14 日 -16 日 . 金沢大学 . ポスター発表 .
- 木下舞香, 佐川千理, 内藤健, 伊藤佑, 佐々木卓, 本庄三恵, 工藤洋, 植村知博, 由良敬, 岩崎貴也. 「全ゲノムリシーケンスとメチローム解析によるジャニンジン野生系統の局所適応の解明」. 第 24 回大会日本植物分類学会 . 2025 年 3 月 7 日 -10 日 . 高知 . ポスター発表 .

ISHIDA, Atsushi 石田 厚 (教授)

- 坂田 剛, 松山 泰, 河合清定, 安元 剛, 関川清広, 石田 厚 (2025) 「小笠原の 23 樹木種におけるルビスコ特性の種間差と葉の経済スペクトラムに沿った最適化」. 第 72 回日本生態学会大会 . 札幌 .
- 森 茂太, 黒澤陽子, 丸山 温, 菊地 賢, FERRIO Juan, 石田 厚, 山路恵子 (2025) 「アカイタヤとエゾイタヤはなぜ同所でも耐乾燥性が異なり生殖隔離するのか」. 第 72 回日本生態学会大会 . 札幌 .
- 大藁真由, 直井勝延, 坂田 剛, 古平栄一, 下川房男, 石田 厚, 別宮有紀子 (2025) 「亜熱帯性低木テリハハマボウとシャリンバイにおける根の呼吸速度と導管流および葉の蒸散速度の関係」. 第 72 回日本生態学会大会 . 札幌 .
- 佐々木陽依, 河合清定, 石田 厚, 才木真太郎, 山尾僚 (2025) 「葉の通水性と機械的支持にはトレードオフがあるか? —樹木 38 種を用いた検証—」. 第 72 回日本生態学会大会 . 札幌 .

KUDOH, Hiroshi 工藤 洋 (教授)

- 本庄三恵, 工藤洋. 「自然環境下における植物のストレス応答遺伝子の発現に対するウイルス感染の影響 Effect of virus infection on the expression of stress-responsive genes in plants under natural conditions」. 第 57 回種生物学シンポジウム . 2025 年 12 月 20 日 . 八王子 . ポスター発表 .
- 大坪雅, 西尾治幾, 工藤洋, 本庄三恵. 「多年生草本ハクサンハタザオへのカブモザイクウイルス感染は媒介昆虫アブラムシを減少させる Reduction of aphid fecundity by turnip mosaic virus infection in perennial *Arabidopsis*」. 第 57 回種生物学シンポジウム . 2025 年 12 月 19-21 日 . 八王子 . ポスター発表 .
- 吉田直史, 工藤洋, 本庄三恵. 「ウイルス長期感染による宿主植物の環境応答性の変化」. 東北植物学会第 15 回大会 . 2025 年 12 月 12-13 日 . 秋田 . ポスター発表 .
- 工藤 洋. 「ヒストン抑制修飾 H3K27me3 介在型プロモーターの発見と利用」. 第 14 回近畿植物学会 . 2025 年 11 月 8 日 .
- 工藤洋, 本庄三恵, 西尾治幾, 村中智明, 湯本原樹, 杉阪次郎. 「10 年毎週トランスクリプトームによる 1 年以外の遺伝子発現周期の解析 それって技術? それとも力技? —生態学の現場から考える多様な研究スタイル」. 2025 年 10 月 4 日 (土) 13:00-20:00. 京大理学研究科セミナーハウス .
- 湯本原樹, 本庄三恵, 工藤洋. 「低温順化・脱順化過程での凍結耐性におけるハクサンハタザオ集団の標高文化 それって技術? それとも力技? —生態学の現場から考える多様な研究スタイル」. 2025 年 10 月 4 日 (土) 13:00-20:00. 京大理学研究科セミナーハウス .
- 工藤 洋. 「天候依存的トロピズムによる花の上下運動」. 植物科学談話会 . 2025 年 8 月 23 日 .
- 本庄三恵, 吉田直史, 工藤洋. 「ウイルス感染によるアントシアニン蓄積阻害は冬季ストレス耐性に影響を与えるのか?」. 日本植物学会第 89 回大会 . 2025 年 9 月 18-20 日 . 福岡 . (9/18 口頭発表)

- 吉田直史, 工藤洋, 本庄三恵. 「ウイルス感染が宿主ハクサンハタザオの低温 + 強光ストレス耐性の誘導速度低下を引き起こす」. 日本植物学会第 89 回大会. 2025 年 9 月 18-20 日. 福岡. (9/18 口頭発表)
- 工藤洋, 湯本原樹, 西尾治幾, 村中智明, 杉阪次郎, 本庄三恵. 「葉寿命可塑性の季節スイッチング」. 日本植物学会第 89 回大会. 2025 年 9 月 18-20 日. 福岡. (9/18 シンポジウム)
- 湯本原樹, 西尾治幾, 本庄三恵, 工藤洋. 「アブラナ科常緑多年草ハクサンハタザオの季節依存的な葉寿命制御におけるヒストン修飾解析」. 日本植物学会第 89 回大会. 2025 年 9 月 18-20 日. 福岡. (9/18 口頭発表)
- 清水華子, 西尾治幾, 本庄三恵, 工藤洋. 「季節応答性エンハンサー領域の探索」. 日本植物学会第 89 回大会. 2025 年 9 月 18-20 日. 福岡. ポスター発表.
- 守屋健太, 清水華子, 上原晋, 杉阪次郎, 得津隆太郎, 嶋田知生, 相原悠介, 深城英弘, 野元美佳, 多田安臣, 石崎公庸, 本庄三恵, 工藤洋. 「シロイヌナズナ近縁種の野外トランスクリプトームから見出した季節性温度応答遺伝子 STTP の機能」. 日本植物学会第 89 回大会. 2025 年 9 月 18-20 日. 福岡. (9/18 口頭発表)
- 守屋健太, 清水華子, 杉阪次郎, 相原悠介, 深城英弘, 石崎公庸, 松林嘉克, 本庄三恵, 工藤洋. 「ハクサンハタザオ自然集団の毎週トランスクリプトームから見出した季節応答性遺伝子 STTP の機能」. 第 42 回日本植物バイオテクノロジー学会 (神戸) 大会. 2025 年 9 月 5-7 日. 神戸大学. (口頭発表)
- 横溝 匠, 湯本原樹, 吉岡俊輔, 清水 (稲継) 理恵, 清水健太郎, 工藤 洋. 「オオバタネツケバナにおける繁殖形質の集団分化と潮汐サイクルへの分子応答」. 第 27 回日本進化学会大会. 長浜バイオ大学. 2025 年 8 月 20 日.
- 工藤 洋. 「イン・ナチュラ遺伝子発現で明らかにする変動環境に対する植物の適応」. 日本進化学会第 27 回大会. 長浜バイオ大学. 2025 年 8 月 20 日.
- 工藤 洋. 「タネツケバナ属植物における離性通気組織形成」. 京大植物東奔西走 2025. 2025 年 7 月 6 日.
- Otsubo M, Nishio H, Kudoh H, Honjo MN, Kudoh H, Honjo MN. "Turnip mosaic virus infection suppresses aphid fecundity by altering physiology of its host, *Arabidopsis helleri*". July 9, 2025. Annual Conference of the Canadian Society for Ecology and Evolution. Sherbrooke, QC, Canada.
- Honjo MN, Emura N, Kamitani M, Kudoh H. "Seasonality of virus-plant interaction during the long-term infection in a natural environment". July 8 2025 Annual Conference of the Canadian Society for Ecology and Evolution Sherbrooke, QC, Canada.
- Kudoh H, Shibata A, Shimizu H, Honjo MN. "Weather-dependent tropism satisfies pollinator attraction and floral protection in a perennial *Arabidopsis* flower Cold Spring Harbor Asia Conference on Plant Reproductive Development and Genomics". May 18-22, 2025. Awaji, Japan.
- 木下舞香, 佐川千理, 内藤健, 伊藤佑, 佐々木卓, 本庄三恵, 工藤洋, 植村知博, 由良敬, 岩崎貴也. 「全ゲノムリシーケンスとメチローム解析によるジャニンジン野生系統の局所適応の解明」. 第 24 回 (高知) 大会 日本植物分類学会. 2025 年 3 月 7-10 日. 高知. ポスター発表.
- 清水華子, 西尾治幾, 工藤洋. 「季節応答性エンハンサーによる抑制型クロマチン修飾を介した転写制御」. 第 66 回日本植物生理学会. ポスター発表.
- 守屋健太, 清水華子, 上原晋, 湯本原樹, 杉阪次郎, 得津隆太郎, 嶋田知生, 野元美佳, 多田安臣, 西尾治幾, 本庄三恵, 工藤洋. 「ハクサンハタザオの野外毎週トランスクリプトームデータから見出された新規温度応答遺伝子 STTP の解析」. 第 66 回日本植物生理学会. ポスター発表.
- Nishio H, Araki A, Kanaoka M, Kudoh H. "Epigenetic regulation underlying short- and long-term drought responses in a perennial *Cardamine*". 第 72 回日本生態学会大会. 2025 年 3 月 15-18 日. 札幌. ポスター発表.
- 横溝匠, 湯本原樹, 工藤洋. 「1 日に 2 度沈む植物: オオバタネツケバナにおける淡水潮汐環境への適応」. 第 72 回日本生態学会大会. 2025 年 3 月 15-18 日. 札幌. ポスター発表.
- Yumoto G, Nishio H, Muranaka T, Sugisaka J, Honjo MN, Kudoh H. "Cessation of leaf senescence in winter and subsequent leaf fate". The 72nd Annual Meetings of Ecological Society of Japan. March 15–18, 2025. Sapporo.
- 工藤洋, 本庄三恵, 西尾治幾, 村中智明, 湯本原樹, 杉阪次郎. 「10 年毎週トランスクリプトーム: ハクサンハタザオにおける季節的遺伝子発現の年間変動」. 第 72 回日本生態学会大会. 2025 年 3 月 15-18 日. 札幌.
- 本庄三恵, 吉田直史, 工藤洋. 「ウイルス感染によるハクサンハタザオの 冬季ストレス耐性とアントシアニン蓄積への影響」. 第 72 回日本生態学会大会. 2025 年 3 月 15-18 日. 札幌. 口頭発表.

- Otsubo M, Nishio H, Kudoh H, Honjo MN, Kudoh H, Honjo MN. "Turnip mosaic virus infection on *Arabidopsis halleri* suppresses aphid fecundity by altering host physiology in the natural habitat". The 72nd Annual Meeting of the Ecological Society of Japan. March 15–18, 2025. Sapporo.
- 小茂尻真凜, 吉田直史, 工藤洋, 本庄三恵. 「ハクサンハタザオ自然集団におけるウイルス感染が花形質と繁殖成功に与える影響」. 第 72 回日本生態学会大会. 2025 年 3 月 15 日 -18 日. 札幌. ポスター発表.
- Yumoto G, Nishio H, Muranaka T, Sugisaka J, Honjo MN, Kudoh H. "Seasonal dependent switching of leaf senescence control in *Arabidopsis halleri* British Ecological Society Annual". Meeting. Liverpool, UK.
- Nishio H, Ito T, Honjo MN, Muranaka T, Emura N, Shimizu H, Kimura H, Kim TT, Kakutani T, Kudoh H. "Seasonal dynamics of epigenome in a natural population of *Arabidopsis halleri*". 1st Asia & Pacific Bioinformatics Joint Conference.

LEE, Wanyi 李 婉儀 (特定助教)

- 南川未来, リーワンイ, 半谷吾郎. 「環境の違いが宿主の種よりも腸内細菌叢に強く影響する-タイワンザルとニホンザルの比較研究」. 第 70 回プリマーテス研究会. 2025 年 11 月. 犬山市.
- Wanyi Lee, Primus Lambut, Joseph Tangah, Henry Bernard, Vijay Subbiah Kumar, Matsuda I. "Contrasting but Interconnected Transmission Pathways of Gut Microbiome and Parasites in Wild Proboscis Monkeys". International Symposium on Primatology and Wildlife Sciences. November 2025. Kyoto.
- Lilian Jose, Wanyi Lee, Hanya G, Augustine Tuuga, Benoit Goossens, Joseph Tangah, Matsuda I, Vijay Kumar. "Conservation Relevance of Dietary Adaptation and Gut Microbiota in Free-Ranging Proboscis Monkeys in Sabah, Malaysian Borneo". International Symposium on Primatology and Wildlife Sciences. November 2025. Kyoto.
- 南川未来, リーワンイ, 半谷吾郎. 「環境要因が宿主の種よりも腸内細菌叢に強く影響する-タイワンザルとニホンザルの比較研究-」. 第 27 回 SAGA シンポジウム. 2025 年 11 月. 東京.
- Minamikawa M, Pierre Philippe Mbehang Nguema, Wanyi Lee, Tsuchida S, Ushida K, Hanya G. "Differences in Fermentation Ability of Gut Microbiota between Wild Gorillas and Chimpanzees". 30th International Primatological Society Congress. July 2025. Madagascar.
- 南川未来, リーワンイ, 半谷吾郎. 「宿主の種と環境要因, 腸内細菌叢により強く影響するのはどちらか-タイワンザルとニホンザルの比較研究-」. 第 41 回日本霊長類学会大会. 2025 年 7 月. 東京.

NAKANO, Shin-ichi 中野 伸一 (教授)

- 中野伸一. 「琵琶湖は大きくて深いからこそおもしろい: 深層の微生物と底生動物の生態から将来の琵琶湖生態系について」. 令和 6 年度びわ湖セミナー 琵琶湖深湖底を探る~底生動物たちの知られざる生態~. 2025 年 3 月 20 日. 大津市, 滋賀県.
- Nakano S. "Long term changes in water quality, plankton and benthos communities of Lake Biwa with special reference to eutrophication and climate warming". The 6th International Forum on Watershed Ecological Security. July 11-13, 2025. Ningbo University. Keynote speech.
- Nakano S. "Long term changes in water quality, plankton and benthos communities of Lake Biwa with special reference to eutrophication and climate warming". 2025 年日本国際博覧会. オランダパビリオン主催. Wetskills-Japan 2025. 招待講演 (オンライン).
- Nakano S. "Long term changes in water quality, plankton and benthos communities of Lake Biwa with special reference to eutrophication and climate warming". 2025 Maritime Silk Road International Industry-University-Research-Application Collaboration Conference – Marine and Ecological Environment Session, and the 3rd Forum of Ecological Society of University Alliance of the Belt & Road. October 10-13, 2025. Yunnan University. Session-Specific Keynote speech.
- Nakano S. "Long term changes in water quality, plankton and benthos communities of Lake Biwa with special reference to eutrophication and climate warming". 杭州市生態環境局淳安分局. November 5, 2025. 杭州市生態環境局淳安分局招待講演.

OTAKE, Yurie 大竹 裕里恵（助教）

- 大竹裕里恵.「湖沼堆積物で遡る、動物プランクトン集団遺伝構造から湖沼生態系までの長期変動」. 日本陸水学会 吉村賞 受賞講演. 日本陸水学会第 89 回大会. 2025 年 9 月. 札幌.
- 大竹裕里恵, 大西由花, 山道真人, 占部城太郎, 吉田丈人.「生物個体群における集団遺伝構造の形成過程とその影響要因: 5 湖沼における *Daphnia cf. pulex* 休眠卵を用いた古陸水学的分析」. 日本陸水学会第 89 回大会. 2025 年 9 月. 札幌.
- 宮崎真治, 大竹裕里恵, 伊藤康一, 牧野渡, 占部城太郎, 青木孝文.「深層学習を用いた動物プランクトンの自動モニタリングシステムの開発」. 日本陸水学会第 89 回大会. 2025 年 9 月. 札幌.
- 大竹裕里恵, 山田雄一郎, 牧野渡, 大杉奉功, 占部城太郎.「小型枝角類 *Bosmina tanakai* の東北以南における分布と季節動態」. 2025 年日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会. 2025 年 9 月. 仙台.
- Otake Y, Onishi Y, Yamamichi M, Urabe J, Yoshida T. "How population genetic structure is developed? Observation using lake sediment and *Daphnia ephippia*". EAFES11. 2025 年 7 月.
- 大竹裕里恵, 大西由花, 山道真人, 占部城太郎, 吉田丈人.「集団遺伝構造に対する移入順の影響: 湖沼堆積物とミジンコ休眠卵による実証研究」. 第 72 回日本生態学会大会. 2025 年 3 月 15-18 日. 札幌.
- 大竹裕里恵.「ミジンコとワムシで覗く動物プランクトンの多様性」(講演). 博物ふえすていばる! 11. 2025 年 7 月. 東京. (アウトリーチ)
- 大竹裕里恵.「色々なミジンコを、顕微鏡で見比べてみよう」(講師). 京都大学キッズコミュニティ アカデミックプログラム. 2025 年 6 月. (アウトリーチ)
- 大竹裕里恵.「ミジンコってどんな生き物?」(講演). 博物マニア 2025. 2025 年 6 月 7-8 日. 名古屋. (アウトリーチ)

SATO, Takuya 佐藤 拓哉（教授）

- 佐藤拓哉.「寄生虫ハリガネムシによる行動操作の仕組みと自然生態系での役割」. 第 77 回日本動物学会 関東支部大会. 2025 年 3 月 15 日. 茨城. (口頭発表)
- 佐藤拓哉.「同位体解析×ゲノム解析で可視化する降海性サケ科魚類の流域スケール個体群ダイナミクス」. 第 72 回日本生態学会. 2025 年 3 月 16 日. 北海道. (口頭発表)
- 佐藤拓哉.「延長された表現型の仕組みとその進化: ハリガネムシは如何にカマキリを入水させるのか?」. 日本動物学会 近畿支部 公開講演会. 2025 年 5 月 10 日. 兵庫. (口頭発表)
- 佐藤拓哉.「カマキリはなぜ水に飛び込む? 昆虫を操る寄生虫の謎に迫る」. 第 15 回日本昆虫科学連合・日本学術会議共催シンポジウム. 2025 年 6 月 28 日. オンライン. (口頭発表)

TANAKA, Hiroyuki 田中 洋之（助教）

- 田中洋之, 川本芳, 宮本俊彦, 杉山茂, 星野智紀, 赤見理恵.「ミトコンドリア DNA からみた新潟県妙高市笹ヶ峰地域のニホンザルと近隣地域集団との系統関係(予備報告)」. 第 41 回日本霊長類学会大会. 2025 年 7 月. 早稲田大学.
- 田中洋之.「ニホンザルのなかま: 遺伝子の構造を調べてサルの進化を考えよう」. 京大ウィークス 2025 一般公開. 2025 年 11 月. 京都大学生態学研究センター.
- Tanaka H, Kawamoto Y, Miyamoto T, Sugiyama S, Hoshino T, Akami R. "Phylogenetic relationship of Sasagamine Japanese macaques (Myoko City, Niigata) to neighboring local populations as inferred from mitochondrial DNA: a preliminary report". The 20th International Symposium on Primatology and Wildlife Sciences. November 2025. Kyoto University.

YACHI, Shigeo 谷内 茂雄（准教授）

- 楊霽, 谷内茂雄.「捕食者の連想学習が擬態行動に与える影響の数理解析」. 日本動物行動学会第 44 回大会. 2025 年 11 月 23 日. 函館アリーナ・函館市民会館. ポスター発表.

Yachi S. "How was animal individuality become established? - The roles, interactions, and transformations of natural selections at each stage of social evolution". EMBO Workshop -Evolution and origins of multicellularity across the tree of life-. 2025 年 11 月 9 日 . バルセロナ , スペイン . ポスター発表 (オンライン参加).

YAMAUCHI, Atsushi 山内 淳 (教授)

山内淳 . 「血縁者間の混合戦略をとる協力ゲームに現れる複雑な適応地形」 . 第 72 回日本生態学会 . 2025 年 3 月 15-18 日 . 札幌 . 札幌コンベンションセンター . (口頭発表).

Kim B-M, Yamauchi A. "Optimal allocation schedule of plant under the competition". 第 72 回日本生態学会 . 2025 年 3 月 15-18 日 . 札幌 . 札幌コンベンションセンター . (口頭発表).

Kim B-M, Yamauchi A. "Dynamic optimization of resource allocation represents the tragedy of the commons in plants under competition for limited resources". Joint Conference of Asian Conference on Mathematical Biology and Annual Meeting of Japanese Society for Mathematical Biology (ACMB-JSMB2025). 2025 年 7 月 7-11 日 . 京都 . 京都テルサ . (ポスター発表).

YAMAWO, Akira 山尾 僚 (教授)

○ Inoue T. "The effect of fecal microorganisms on seed germination and growth". 41th Population Ecology 2025. September, 2025. kyoto. 口頭 .

○ Yamawo A. "Mutualistic interactions as drivers of forest ecosystem evolution". 41th Population Ecology 2025. September, 2025. kyoto. 口頭 .

Kaneko T, Nishizawa Y, Onjo M, Yamawo A. "The Role of Anthocyanin in Belowground Conspecific Interaction: A Case Study Using *Dioscorea alata* (Water Yam) Cultivars with Varying Anthocyanin Contents". Joint Conference of the International Society of Chemical Ecology (ISCE) and the Asia-Pacific Association of Chemical Ecologists (APACE). August, 2025. Christchurch, New Zealand. 口頭 .

Yamawo A. "Macroevolutionary patterns in trees shaped by three key mutualisms: Pollination, seed dispersal, and mycorrhizal symbiosis". ESEB 2025. August, 2025. Barcelona, Spain. 口頭 (シンポ招待講演).

Mizuki M, Kaneko Y, Yukie Y, Suyama Y, Hirota S, Sawa S, Kubo M, Yamawo A, Sasabe M, Ikeda H. "Evolution of secondary metabolites, morphological structures and associated gene expression patterns in galls among four closely-related aphid species". 11th East Asian Federation of Ecological Societies. June, 2025. Tokyo. ポスター . BEST POSTER AWARD.

○ Yamawo A. "Bridging Multi-omics and Ecology : From Molecules to Ecosystems". Joint global symposium on ecological research by SNU IDIS-CER Kyoto University. December, 2025.

○ Inoue T, Yamawo A, "Seed dispersal Research Riding the Wind and Animalsz-New Patterns and Processes Illuminating the Evolutionary History of Terrestrial Ecosystemsz-". 第 41 回個体群生態学会大会 . シンポジウム . 2025 年 9 月 . 京都 .

山尾僚 . 「植物の個体間相互作用が生み出す進化－生態ダイナミクス」 . 第 89 回植物学会シンポジウム . 植物科学における異分野融合 : 分子・生態・情報・気候科学の融合から解き明かす植物気候フィードバック . 2025 年 9 月 . 福岡 .

井上輝紀 , 山尾僚 (企画) . 「風にのり、動物と共に広がる種子散布研究 — 新たなパターンとプロセスが描き出す陸上生態系の進化史 —」 . 第 41 回個体群生態学会 企画シンポジウム . 2025 年 9 月 . 京都 .

山尾僚 , 井上輝紀 , 金子拓斗 , 佐々木陽依 , 土居健央 . 森のレッスン「生態学者が紐解く、生き物たちによる森づくり」 . 2025 年 7 月 . 岐阜 .

山尾僚 . 「簡単な実験で解き明かす植物と昆虫のムフフな関係」 . 第 1 回岡山県自然保護センター中高生新博物学探求発表会特別講演 . 2025 年 5 月 . 岡山 .

山尾僚 . 「植物の行動生態学 一様々な環境応答が可能にする多様な生存戦略」 . ブルーミング・フォーラム 2025. 2025 年 1 月 . 大阪 .

山尾僚 (協力) . 「植物に学ぶ生存戦略 話す人・山田孝之 (11) 甘美な報酬」 . NHK 番組ページ . 2025 年 .

B. Graduate Students and Research Fellows 研究員・大学院生・研究生

出版物

GOTO, Akiko 後藤 晶子 (研究員)

Ohta A, Goto AS, Wakaki S, Minami M (2025) Strontium-isotope mapping of the Kyushu islands, southwestern Japan, using stream sediments. *Geochemical Journal* 59(1): 9–25. DOI: 10.2343/geochemj.GJ24027.

Suzuki H, Tomikawa I, Goto AS, Hasegawa T, Kotaki A (2025) Permian-Triassic boundary section of Ubara (Kyoto Prefecture, Japan) with its carbon isotope ratio. *News of Osaka Micropaleontologists, Special Volume* 18: 69–75. DOI: 10.24517/0002003654.

INOUE, Teruki 井上 輝紀 (大学院生)

Inoue T, Okuda K, Sakamoto Y, Miyamoto R, Kobayashi H, Yokoyama M, Yamawo A (2025) Seed deposition patterns reflect the foraging behavior and food habits of mammalian seed dispersers. *Acta Oecologica* 128: 104111.

DOI: 10.1016/j.actao.2025.104111. 研究ハイライト, 京都大学生態学研究センターニュース 157: 10.

ONO, Masato 小野 誠仁 (特定研究員)

Ono M, Takeuchi N (2025) The diel vertical migration of microbes within snowpacks driven by solar radiation and nutrients. *Arctic, Antarctic, and Alpine Research* 57(1). DOI: 10.1080/15230430.2025.2460253.

Ono M, Kobayashi K, Seto D, Konishi F, Wada K, Usuba S, Takeuchi N (2025) Temporal and vertical changes in snow microbial communities during the melting season below canopy in Northern Japan. *The Cryosphere* 19(11): 5983–5999. DOI: 10.5194/tc-19-5983-2025.

小野誠仁 (2025) 57 なぜ雪の中で?: 雪氷クマムシが生きる術. 日本動物行動学会 (編) / 日本動物心理学会 (編集協力). 朝倉書店. 動物の行動と心の事典. ISBN978-4-254-17205-8.

OZAWA, Rika 小澤 理香 (研究員)

Ushio M, Saito H, Shimono Y, Okada K, Ozawa R, Shiojiri K, Takabayashi J (2026) Contrasting ecological communities in rice paddy fields under conventional and no-fertilizer farming practices. *Agriculture Ecosystems & Environment* 397: 110066. DOI: 10.1016/j.agee.2025.110066. November, 2025 (Early Access Date).

Endo Y, Tanaka M, Uemura T, Tanimura K, Desaki Y, Ozawa R, Bonzano S, Maffei ME, Shinya T, Galis I, Arimura G (2025) Spider mite tetranins elicit different defense responses in different host habitats. *Plant Journal* 121(5): e70046. DOI: 10.1111/tpj.70046.

Rahimian S, Ozawa R, Uemura T, Galis I, Arimura GI (2025) Bush Basil Companion Plants Act as Plant Defense Potentiators for Cultivated Plants. *Journal Of Agricultural And Food Chemistry* 73(28): 17542–17549. DOI: 10.1021/acs.jafc.5c05179.

小澤理香 (2025) 「植物ホルモン処理による植物と昆虫のコミュニケーションの強化」植物の多次元コミュニケーションダイナミクス～分子メカニズムから農業応用の可能性まで～. 高林純示 監修. (株) エヌ・ティー・エス. ISBN 978-4-86043-942-2 C3045.

SHIMIZU, Hanako 清水 華子 (特定研究員)

Shibata A, Yumoto G, Shimizu H, Honjo MN, Kudoh H (2025) Flower movement induced by weather-dependent tropism satisfies attraction and protection. *Nature Communications* 16: 4132. DOI: 10.1038/s41467-025-59337-6.

Shimizu H, Nishio H, Kudoh H (2025) Plant *ADHI* promoter acts as an H3K27me3 - associated hyper - long cold - responsive promoter. *The Plant Journal* 122 (5): e70248. DOI: 10.1111/tpj.70248. 研究ハイライト, 京都大学生態学研究センターニュース 157: 11.

Ueda R, Kanaiwa M, Terui A, Takimoto G, Sato T (2025) Seasonal timing of ecosystem linkage mediates life-history variation in a salmonid fish population. *Ecology* 106(5): e70114. DOI: 10.1002/ecy.70114. 研究ハイライト, 京都市大学生態学研究センターニュース 156: 19.

C. Affiliated Scientists 協力研究員

IKEYA, Tohru 池谷 透

- Ishikawa N.F, Uehara Y, Ishida T, Ikeya T, Asano S, Ko C-Y, Iwata T, Tayasu I, Ohkouchi N, Okuda N (2025) Spatiotemporal variations in integrated trophic positions of stream macroinvertebrate communities. *Progress in Earth and Planetary Science* 12(2). DOI: 10.1186/s40645-024-00671-6.
- Martinez-Goss M.R, Ohtsuka T, Arguelles E.D.L.R, Ikeya T, Peralta E.M, Papa R.D.S, Okuda N (2025) Annotated Checklist and Illustrations of Pinnularia Species in the Marikina River, Rizal (Luzon), Philippines. *Philippine Journal of Science* 154(2): 427-464. DOI: 10.56899/154.02.16.

KAMEDA, Kayoko O. 亀田 佳代子

- 亀田佳代子 (2025) 第一章 ウミウ・カワウーその行動と生態からみた鵜飼 . In: 卯田宗平編『鵜飼の日本史—野生と権力、表象をめぐる 1500 年』. 昭和堂 . 京都市 . pp21-39.
- 亀田佳代子 (2025) 各論 17. カワウ . In: 「野生生物と社会」学会編・日本哺乳類学会・日本鳥学会 (編集協力). 『野生動物の保全と管理の事典』. 朝倉書店 . 東京 . pp443-453.

MINAMOTO, Toshifumi 源 利文

- Uchiyama Y, Sato M, Ushimaru A, Minamoto T (2025) Analysis of integrated studies on ecosystem service, human well-being, and urban planning: Regional trends and recommendations for future studies. *Urban Ecosystems* 28: 214. DOI: 10.1007/s11252-025-01831-2.
- Kuroita T, Wu Q, Iwamoto R, Minamoto T (2025) QuickConc: A rapid, efficient, and power-free eDNA concentration method with cationic-assisted capture. *Ecology and Evolution* 15(10): e72269. DOI: 10.1002/ece3.72269.
- Hirayama IT, Kunimasa Y, Takeuchi A, Minamoto T (2025) Significant improvement of environmental DNA assay by targeting retrotransposon sequences characteristic to *Anguilla* eels. *Environmental DNA* 7(5): e70197. DOI: 10.1002/edn3.70197.
- Uchiyama Y, Kyan A, Sato M, Ushimaru A, Minamoto T, Harada K, Takakura M, Kohsaka R, Kiyono M, Tsurumi T, Uchida A, Saga T, Yamamoto K (2025) Association between objective and subjective relatedness to nature and human well-being: key factors for residents and possible measures for inequality in Japan's megacities. *Landscape and Urban Planning* 261: 105377. DOI: 10.1016/j.landurbplan.2025.105377.
- Ongkulee J, Suwannapoom C, Minamoto T, Osathanunkul M (2025) Development of an eDNA-Based qPCR and dPCR method for detecting the spatial distribution and relative abundance of the critically endangered giant barb (*Catlocarpio siamensis*). *Global Ecology and Conservation* 59: e03511. DOI: 10.1016/j.gecco.2025.e03511.
- Wu Q, Nakano T, Ishida S, Komai T, Fujiwara Y, Yoshida T, Kawato M, Oka S, Fujikura K, Miya M, Minamoto T (2025) Development of universal PCR primers for the environmental DNA metabarcoding of cephalopod (Mollusca) diversity. *Marine Environmental Research* 208: 107094. DOI: 10.1016/j.marenvres.2025.107094.
- Takahara T, Yamagishi S, Shimoda R, Nagata A, Sakata MK, Doi H, Minamoto T (2025) Seven-year changes in eDNA concentrations of two dominant submerged macrophytes in Lake Shinji: effects of salinity. *Estuarine, Coastal and Shelf Science* 315: 109165. DOI: 10.1016/j.ecss.2025.109165.
- Urabe J, Wakana I, Ohtsuki H, Sakata MK, Ohtake Y, Ichige R, Kuwae M, Minamoto T (2025) Reconstruction of marimo population dynamics over 200 years using molecular markers and fossil plankton remains. *Environmental DNA* 7(2): e70085. DOI: 10.1002/edn3.70085.
- Sakata A, Minamoto T, Sado T, Gotoh RO, Miya M (2025) Influence of homogenization methods on lichen species detection from environmental DNA metabarcoding. *Metabarcoding and Metagenomics* 9: e144340. DOI: 10.3897/mbmg.9.144340.
- 源利文 (2025) 環境 DNA 調査の広がりと今後の期待 . ミルシル 18: 15–17.

MORI, Toyohiko 森 豊彦

- 森豊彦 (2025) 中米ホンデユラスのドングリキツツキの生態 . 人と自然の共生ネット 6 号 : 19-22.
- 森豊彦 (2025) 京丹後市の離湖は京都府の天然記念物に指定すべきか . 人と自然の共生ネット 6 号 : 9-15.
- 森豊彦, 奥野泰智 (2025) 巣穴を作らないアリジゴク幼虫の行動の比較 . 人と自然の共生ネット 6 号 : 23-36.
- 森豊彦, 三浦勤 (2025) 地衣類に擬態したアリジゴクのコマダラウスバカゲロウの生態と生活史 . 人と自然の共生ネット 7 号 : 37-46.
- 森豊彦 (2025) マダラウスバカゲロウの生活史 . 人と自然の共生ネット 6 号 : 47-51.
- 森豊彦, 堀之内綾果 (2025) 京都府に府立自然史博物館が必要か . 人と自然の共生ネット 7 号 : 2-4.
- 森豊彦 (2025) タンザニアの野生チンパンジーの保護とエコツーリズム . 人と自然の共生ネット 7 号 : 31-35.
- 森豊彦 (2025) 鳥・トンボ・クモ・チョウ群集のダイヤグラム法による里地里山の環境評価 . 人と自然の共生ネット 7 号 : 36-46.
- 森豊彦 (2025) アリジゴク幼虫の体色変異と形態は地衣類に適応的な擬態をしているか . 人と自然の共生ネット・7 号 : 47-57.

NOZAKI, Kentaro 野崎 健太郎

- Nozaki K (2025) Appearance of *Euglena mutabilis* with a filamentous green alga *Klebsormidium* community near a volcanic acidified spring in the southern part of Mt. Ontake, central Japan. *Rikunomizu* 104 (Supplement 12): 29-35.
- 野崎健太郎 (2025) 合流点付近における籠川と矢作川の水質 : 平常時における支川から本川への栄養塩の供給の見積もり . 矢作川研究 29: 51-58.
- 野崎健太郎 (2025) 自然体験学習の教材としてのヨモギ (*Artemisia princeps*) のおこのみやき . 椋山女学園大学研究論集 (自然科学篇) 56: 1-8.
- 野崎健太郎 (2025) 保育者および小学校教員養成課程における教材としてのアベマ (*Quercus variabilis*) のどんぐりを用いたこまづくり . 椋山女学園大学教育学部紀要 18: 167-171.
- Inoue M, Nozaki K, Genkai-Kato M (2025) Sample selection disparity: Sampling only cobble overestimates the biomass of stream benthic algae. *Ecological Research* 40(4): 403-408. DOI: 10.1111/1440-1703.12523.

OKAZAKI, Yusuke 岡崎 友輔

- Chiriac MC, Layoun P, Fernandes C, Szoke-Nagy T, Kasalicky V, Okazaki Y, Woodhouse J, Grossart HP, Piwosz K, Znachor P, Sonntag B, Callieri C, Orlic S, Sommaruga R, Lepère C, Biderre-Petit C, Tammert H, Herlemann DPR, Ślusarczyk M, Bednarska A, Banciu HL, Zalewski M, Woźniczka A, Ghai R, Salcher MM, Haber M (2025) Ecological success in freshwater lakes: insights from novel cultivated lineages of the abundant *Nanopelagicales* order. *Microbiome* 14(1): 27. DOI: 10.1186/s40168-025-02272-x.
- Fernandes C, Haber M, Layoun P, Chiriac MC, Bulzu PA, Ghai R, Kasalicky V, Shabarova T, Grossart HP, Woodhouse J, Piwosz K, Alonso C, Zanetti J, Hamilton DP, Ngochera M, Nakano S, Okazaki Y, Salcher MM (2025) Ecophysiology and global dispersal of the freshwater SAR11-IIIb genus *Fontibacterium*. *Nature Microbiology* 10(9): 2194-2206. DOI: 10.1038/s41564-025-02091-8.
- Okazaki Y, Nishikawa Y, Wagatsuma R, Takeyama H, Nakano S (2025) Contrasting defense strategies of oligotrophs and copiotrophs revealed by single-cell-resolved virus–host pairing of freshwater bacteria. *ISME Communications* 5(1): ycaf086. DOI: 10.1093/ismeco/ycaf086.

OKUDA, Noboru 奥田 昇

- Ishida T, Okuda N, Onodera S, Saito M, Tomozawa Y, Liu X, Goto N, Osaka K, Maruo M, Tayasu I, Ban S (2025) Phosphate oxygen isotope insights into the coupled distribution of phosphorus, iron, and manganese in lake sediments. *Chemical Geology* 683: 122754. DOI: 10.1016/j.chemgeo.2025.122754.

- Ho P-C, Chen C-T, Okuda N, Wang P-L, Gong G-C, Hsieh C-h (2025) Nutrient supply, prey body size and biomass determine the trophic structures in marine plankton food webs. *Progress in Oceanography* 238: 103557. DOI: 10.1016/j.pocean.2025.103557.
- Reyes R.R, De Leon S.J.R, Rioflorida L.K.S, Rodelas E.G.A, Salengua A.M, Poblete K.N, Bicaldo I.E.C, De Leon J.R, Mendoza-Pascual M.U, Austria E.S, Papa R.D.S, Okuda N (2025) Tropical monsoon climate influences the abundance and vertical distribution of methane-oxidizing bacteria communities in a monomictic lake (Lake Yambo, the Philippines). *Philippine Journal of Science* 154 (3): 763-775. DOI: 10.56899/154.03.19.
- Martinez-Goss M.R, Ohtsuka T, Arguelles E.D.L.R, Ikeya T, Peralta E.M, Papa R.D.S, Okuda N (2025) Annotated checklist and illustrations of *Pinnularia* Species in the Marikina River, Rizal (Luzon), the Philippines. *Philippine Journal of Science* 154 (2): 427-446. DOI: 10.56899/154.02.16.
- Ishikawa N.F, Uehara Y, Ishida T, Ikeya T, Asano S, Ko C-Y, Iwata T, Tayasu I, Ohkouchi N, Okuda N (2025) Spatiotemporal variations in integrated trophic positions of stream macroinvertebrate communities. *Progress in Earth and Planetary Science* 12(2). DOI: 10.1186/s40645-024-00671-6.

OZAWA, Seiji 小沢 晴司

- 小沢晴司 (2025) 震災 14 年福島森は何を見てきたか . 巨樹・巨木林 71 号 . 全国巨樹・巨木林の会会報 .
- 小沢晴司 , 中島悠二 (2025) 浜通りの景観の再発見と交流の再生 ～ふくしま浜街道トレイル設定と運営を通じ～ . 日本造園学会東北支部大会発表稿 . 2025 年 11 月 . 福島 .
- 小沢晴司 , 北浦鑑久 , 守岡文浩 (2025) 原子力被災地での地域景観の再評価 ～ふくしまフットパスの設定と交流の試行～ . 日本造園学会東北支部大会発表稿 . 2025 年 11 月 . 福島 .
- 小沢晴司 , 阿部加奈子 , 秋保早希 (2025) 浜通りでの生物多様性への注目 ～巨木フォーラム福島・広野大会の開催～ . 日本造園学会東北支部大会発表稿 . 2025 年 11 月 . 福島 .

TAKANO, Kohei 高野 宏平

- Okuyama Y, Fukushima K, Kakishima S, Valchanova AK, Takano KT, Ito-Inaba Y, Nakazato T, Nagano AJ (2025) Convergent acquisition of disulfide-forming enzymes in malodorous flowers. *Science* 388(6747): 656-661. DOI: 10.1126/science.adu8988.
- Otsubo M, Sato MP, Suzuki-Masuko H, Nakai H, Takano KT, Ozeki M, Otsuka K, Watanabe M, Inaba T, Ito-Inaba Y (2025) *Symplocarpus renifolius* SWEET4 and SWEET6 may contribute to stamen development via hexose transport during floral thermogenesis. *Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry* zbafl70. DOI: 10.1093/bbb/zbafl70.

生態研セミナー

第 364 回 2025 年 4 月 18 日 (金)

「乾燥ストレスによる樹木のエンボリズム発生とその後の機能回復 (Embolism formation under drought stress and subsequent functional recovery in trees)」

小笠真由美 (森林総合研究所関西支所)

「シジュウカラ語の発見と動物言語学の挑戦 (The discovery of bird language and the challenge of animal linguistics)」

鈴木俊貴 (東京大学先端科学技術研究センター)

第 365 回 2025 年 5 月 16 日 (金)

「Molecular Microbial Ecology of Natural and Built Environments」

Ola A. Olapade (Biology Department, Albion College, Michigan, USA)

「Multiple Stressors and Freshwaters under Global Change」

Jeremy J. Piggott (Discipline of Zoology, Trinity College Dublin, The University of Dublin, Ireland)

「Plankton engineering: sustainable solutions for overgrown macrophytes and harmful algal blooms」

Xin Liu (Guangxi Academy of Marine Sciences, Guangxi Academy of Sciences, China / Visiting Associate Professor, Center for Ecological Research, Kyoto University)

スペシャル 2025 年 6 月 2 日 (月)

「Cross-domain insights into plant and human microbiomes: implications for biodiversity, ecosystem function, and global change」

Isabelle Laforest-Lapointe (Université de Sherbrooke, Canada)

第 366 回 2025 年 6 月 20 日 (金)

「ヒトを知るための霊長類学: 自然人類学と生態学の交点から見る日本の霊長類学史 (Primateology for understanding humans: Japanese primateology at the intersection of biological anthropology and ecology)」

足立薫 (京都産業大学現代社会学部)

「生態人類学と学際的共同研究 (Ecological anthropology and interdisciplinary joint research)」

河合香史 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)

第 367 回 2025 年 7 月 18 日 (金)

「植物の微弱光環境適応 (Adaptive strategies of plants under low light conditions)」

後藤栄治 (九州大学大学院農学研究院)

「光化学系 II 膜表面タンパク質の分子進化と機能 (Molecular evolution and functional roles of the extrinsic subunits of photosystem II)」

伊福健太郎 (京都大学大学院農学研究科)

スペシャル 2025 年 7 月 25 日 (金)

「Elementary: How Chemical Elements Shape Ecology」

Angelica Lorena Gonzalez Gajardo (Rutgers University / Visiting Associate Professor, Center for Ecological Research, Kyoto University)

「Amazing diversity of zooplankton」

Mingbo Yin (Fudan University)

スペシャル 2025 年 9 月 12 日 (金)

「Is the world wormier than it used to be? Answers from a new sub-discipline: The historical ecology of parasitism」

Chelsea Wood (School of Aquatic and Fishery Sciences, University of Washington)

第 368 回 2025 年 9 月 19 日 (金)

「二つの多細胞世界のお話—細胞性粘菌と後生動物から考える多細胞性の進化 (A tale of two multicelliverses – insights into the evolution of multicellularity from cellular slime molds and metazoans)」

金 孝竜 (順天堂大学医学研究科生化学・生体システム医科学講座)

「配偶子有性生殖の起源と isogamy (同型配偶) から anisogamy (雄と雌) への進化 (The origin of gametic sexual reproduction and the evolution of anisogamy from isogamy)」

安井行雄 (香川大学農学部昆虫学研究室)

スペシャル 2025 年 9 月 29 日 (月)

「Phenotypic and genetic basis of polyploid success in *Rorippa*」

Ting-Shen Han (Xishuangbanna Tropical Botanical Garden, China; Max Planck Institute for Plant Breeding Research, Germany)

第 369 回 2025 年 10 月 17 日 (金)

「植物適応戦略の多様性と生態系機能—機能形質に基づく理解— (The diversity of plant adaptive strategies and ecosystem functions: Insights from plant functional traits)」

黒川紘子 (京都大学大学院農学研究科)

「アラスカ内陸部永久凍土林における植物の生き方 (Ecological strategy of plants in permafrost environment in interior Alaska)」

甘田岳 (森林研究・整備機構)

第 370 回 2025 年 11 月 14 日 (金)

「The current status of human–primate conflict in Sri Lanka: A review」

Charmalie A. D. Nahallage (University of Sri Jayewardenepura / Distinguished Visiting Professor, Center for Ecological Research, Kyoto University)

「長期継続調査と直接行動観察+αで見てきた霊長類の世界 (The World of Primates as Revealed Through Long-Term Research, Direct Behavioral Observations, and More)」

松本卓也 (信州大学理学部)

第 371 回 2025 年 12 月 12 日 (金)

「ゲーム理論を通してみる生態学の世界 (Exploring ecological conflicts through game theory)」

伊藤公一 (同志社大学理工学部)

「ダイナミックな河川溪畔林生態系 (Dynamic river-riparian ecosystem)」

宇野裕美 (東北大学大学院生命科学研究科)

第 372 回 2026 年 1 月 16 日 (金)

「もっとも新しい統合」から「次なる展開」へ：進化群集生態学の挑戦 (From “newest synthesis” to “next perspectives” : the challenge of evolutionary community ecology)」

内海俊介 (北海道大学大学院地球環境科学研究院)

「生物多様性指標でいろいろなものを数えてみよう！ (Counting various things using biodiversity indices!)」

入谷亮介 (理化学研究所数理創造研究センター)

第 373 回 2026 年 2 月 20 日 (金)

「ミジンコにおける環境に応じた繁殖戦略の制御 (Environmental control of reproductive strategies in Daphnia)」

加藤泰彦 (大阪大学大学院工学研究科)

「形質動態とその生態学的影響 (Trait dynamics and their ecological consequences)」

柴崎祥太 (同志社大学文化情報学部)

スペシャル 2026 年 3 月 9 日 (月)

「The ecology and conservation of native orchids」

Dennis F. Whigham (Smithsonian Environmental Research Center, MD, USA)

「Parasites in the age of extinction and ecological disruption」

Mackenzie Kwak (Laboratory of Parasitology, Hokkaido University)

スペシャル 2026 年 3 月 17 日 (火)

「合成倍数体から探る倍数体エピジェネ進化の方向性 (Exploring the direction of polyploid epigenetic evolution through analysis of synthetic polyploids)」

清水 (稲継) 理恵 (チューリッヒ大学進化生物学・環境学研究科)

共同利用・共同研究拠点事業 共同研究 b 採択一覧

2025 年度には、55 件の共同研究 b が採択されました（申請順に掲載）。

申請者	所属	研究課題	担当 教員
山内 靖雄	神戸大学・大学院農学研究科	揮発性情報伝達物質が誘導する遺伝子の解析	工藤 本庄
朴 紫暎	島根大学・総合理工学部	湖底環境での重合体ケイ酸の挙動	中野
大手 信人	京都大学大学院情報学研究科	インド・ムンバイにおけるマングローブ林と人との関係に 関する社会生態学的研究	木庭
萩原 幹花	九州大学・理学研究院	森林群集における揮発性有機化合物を介した植物間コミュ ニケーション	山尾
米田 一紀	滋賀県立琵琶湖博物館・研究部	ホンモロコをモデルとした琵琶湖の環境変化が仔魚加入に 与える影響の解明	木庭
亀甲 武志	近畿大学農学部	ギギとチャネルキャットフィッシュの食物網における相互作用	木庭
鏡味 麻衣子	横浜国立大学・環境情報研究院	相模湾沿岸域における沈降粒子の定量化	中野 大竹
後藤 龍太郎	京都大学・フィールド科学教育研究センター	貝類における寄生性の進化と食性転換	木庭
林 健太郎	総合地球環境学研究所	安定同位体比分析を基にした環境中での窒素動態の詳細解明	木庭
光永 靖	近畿大学・農学部	人為的影響および気候変動が沿岸魚類の食物網に与える影 響の解明	木庭
三谷 曜子	京都大学野生動物研究センター	気候変動下における海棲哺乳類の摂餌生態	木庭
藤巻 玲路	島根大学・生物資源科学部	豪雪境界域における冬季森林窒素流出に対する土壌硝酸化 成の寄与の解明	木庭
土居 秀幸	京都大学・大学院情報学研究科	砂浜の食物網における餌資源としてのアオウミガメ卵の寄 与率の解明	木庭
米谷 衣代	近畿大学・農学部	変動する植物の匂いシグナルが誘導する他個体の遺伝子発 現を時系列で解析する	工藤 本庄
亀甲 武志	近畿大学・農学部	脂肪酸分析を用いた特定外来生物チャネルキャットフィッ シュの餌資源の解明 - 植物は成長に寄与しているのか？ -	木庭
末次 健司	神戸大学大学院理学研究科・生 物学専攻生物多様性講座	脂肪酸分析を用いた菌従属性の評価	木庭
板井 啓明	東京大学大学院理学研究科・地 球惑星科学専攻	ケイ素安定同位体比を用いた琵琶湖集水域の土地利用変化 が淀川流域ケイ酸動態へ及ぼす影響評価と将来予測	中野
寺内 俊二	滋賀県・琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課	琵琶湖北湖の底層 DO の把握	中野
山守 瑠奈	京都大学フィールド科学教育研 究センター瀬戸臨海実験所	共生性貝類の食性の解析	木庭
中野 伸一	京都大学・生態学研究センター	Ecological Assessment of the offshore and littoral bacteria and other organisms in Lake Biwa, Japan	中野
辻 かおる	神戸大学理学研究科・生物専攻	タマバエ科昆虫の生活史の解明	佐藤
野村 康之	龍谷大学・食と農の総合研究所	全トランスクリプトームから明らかにする雑種の形質一日 本に蔓延する雑種チガヤを例に	樋口
柴田 あかり	福井市自然史博物館	ジンチョウゲ属低木のフェノロジー調査	工藤
國島 大河	摂南大学農学部	紀伊半島中部河川におけるスズキ類の栄養生態学的研究	木庭
西尾 治幾	滋賀大学・データサイエンス・AI イノベーション研究推進センター	植物自然集団における季節エピジェネティクス	工藤
橋本 洸哉	弘前大学・農学生命科学部	セイタカアワダチソウの防衛形質に対するアワダチソウグ ンバイの適応進化の検証	山尾
小野寺 真一	広島大学大学院・先進理工系科 学研究科	地下水人工涵養・揚水にともなう水移動と窒素汚染軽減効 果の検証	木庭

申請者	所属	研究課題	担当 教員
塩尻 かおり	龍谷大学・農学部	セイタカアワダチソウの防衛形質の進化実験：形質進化それとも表現型可塑性？	工藤
塩尻 かおり	龍谷大学・農学部	セイタカアワダチソウの匂いによる血縁認識	山尾
湯本 原樹	信州大学・山岳研究所	葉の温度応答の季節変化における分子基盤の解明	工藤 本庄
奥田 昇	神戸大学・内海域環境教育研究センター	流域生態系の生物多様性と多機能性の関係解明	木庭
岡崎 友輔	京都大学・化学研究所	環境ゲノム解析および新規培養技術を活用した琵琶湖微生物生態系の研究	中野
三浦 収	高知大学・農林海洋科学部	琵琶湖の固有カワニナ類に感染する寄生虫の多様性	中野
壁谷 尚樹	東京海洋大学・学術研究院海洋生物資源学部門	海洋におけるオメガ3多価不飽和脂肪酸生産源の実態	木庭
岩田 智也	山梨大学・大学院総合研究部	13C-FAME 分析による地表化学合成生態系の炭素動態解析	木庭
清水（稲継） 理恵	チューリッヒ大学・理学部・進化環境学科	倍数化によるエピゲノム進化と環境適応	工藤
勝原 光希	岡山大学・学術研究院環境生命自然科学学域	ビーホテルを用いたハチ類の網羅的調査	山尾
伊藤 元雄	海洋研究開発機構・高知コア研究所	プレソーラー粒子の炭素・窒素同位体比から見る太陽系起源物質の成因の推定	木庭
小田 あゆみ	信州大学・農学部	樹木の窒素吸収利用に関する研究	木庭
宇楊 再治	京都大学・大学院工学研究科	下水処理場由来の薬剤耐性遺伝子による環境細菌形質転換の検証	中野
岩崎 貴也	お茶の水女子大学・基幹研究院自然科学系	塩ストレス栽培実験と遺伝子発現解析・成分分析から明らかにする海浜環境適応メカニズムの解明	工藤 本庄
檀浦 正子	京都大学農学研究科	カラマツ年輪における炭素安定同位体比の気候応答	木庭
池谷 透	立命館大学・理工学部	琵琶湖のメタン動態・微生物代謝・栄養転送の解明	中野 工藤 木庭
志田 岳弥	高原川漁業協同組合	高原川流域におけるニジマスの生息および繁殖状況の調査	佐藤
高橋 晃太郎	京都大学大学院・理学研究科	単子葉植物の香りに関する研究	工藤 本庄
酒井 陽一郎	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター	気候変動が琵琶湖の水質・生態系にもたらす影響と適応策に関する研究	中野
檀浦 正子	京都大学農学研究科	木本性つる植物と樹木の成長戦略の違いと気候に応じた変遷	木庭
藤原 拓	京都大学大学院・地球環境学	安定同位体比測定による水処理プロセスにおける一酸化二窒素発生メカニズムの解明	木庭
藤原 拓	京都大学大学院・地球環境学	安定同位体比測定による水処理プロセスの詳細解明	木庭
目戸 綾乃	北海道大学・大学院地球環境科学研究科	動物の移動がもたらす森林・河川・海洋生態系間の脂肪酸フラックス	木庭
富永 修	福井県立大学・海洋生物資源学部	若狭湾におけるバフンウニの食性解析	木庭
水野 健太	国立研究開発法人土木研究所流域水環境研究グループ水質チーム	$\delta^{15}\text{N}$ 安定同位体を利用した海域における下水処理水由来の NO_3^- の動態把握	木庭
John Shea	Creighton University・College of Arts and Sciences	ハリガネムシの生活史解明	佐藤
荒木 希和子	滋賀県立大学・環境科学研究科	クローナル植物の遺伝子発現解析	工藤
長谷川 大晃	(株)村田製作所 技術事業開発本部 マテリアル技術センター環境技術開発部開発2課	音の刺激による HIPVs 誘発の研究	工藤 高林

調査船「はす」 運航及び利用実績表（2025 年度）

船：調査船職員
教：CER 教員
院：CER 大学院生等
研：CER 研究員
共：外部共同利用者
CER：CER 構成員

運行日数 35 日
延べ乗船者数 144 名
延べ非乗船利用 258 名

月	日	時間	研究課題・用務内容	乗船利用					非乗船利用	
2025				船	教	院	研	共	CER	共
4	9	8:58 ~ 12:58	定期観測 琵琶湖第 2 湖盆の底層 DO の把握 琵琶湖産動物プランクトンの DNA バーコーディング 琵琶湖における動物プランクトン群集の長期変動 大型植物プランクトンの動態	2	1	1		1	1	7
4	21	8:50 ~ 12:36	琵琶湖第 2 湖盆の底層 DO の把握 大型植物プランクトンの動態	2		1			1	6
4	30	8:05 ~ 11:32	ケイ素安定同位体比を用いた琵琶湖集水域の土地利用変化が淀川流域ケイ酸動態へ及ぼす影響評価と将来予測 琵琶湖第 2 湖盆の底層 DO の把握	2				3	2	9
5	12	8:35 ~ 13:19	定期観測 琵琶湖第 2 湖盆の底層 DO の把握 琵琶湖に生息する Eodiaptomus japonicus の食性 琵琶湖におけるピコシアノバクテリアの動態 琵琶湖における動物プランクトン群集の長期変動	2	1	2			1	6
5	16	8:09 ~ 11:32	定期観測 琵琶湖第 2 湖盆の底層 DO の把握 大型植物プランクトンの動態	2		1			1	6
5	21	9:26 ~ 12:43	定期観測 琵琶湖第 2 湖盆の底層 DO の把握 琵琶湖における動物プランクトン群集の長期変動	2	1			2	1	6
6	9	7:58 ~ 10:36	環境ゲノム解析および新規培養技術を活用した琵琶湖微生物生態系の研究 琵琶湖第 2 湖盆の底層 DO の把握	2				3	2	11
6	17	8:04 ~ 11:17	定期観測 琵琶湖第 2 湖盆の底層 DO の把握 琵琶湖における動物プランクトン群集の長期変動	2	1				1	6
6	19	8:23 ~ 13:30	琵琶湖固有カワニナ類と寄生虫の多様性調査	2				2	1	
7	4	8:12 ~ 11:46	定期観測 琵琶湖第 2 湖盆の底層 DO の把握 琵琶湖におけるピコシアノバクテリアの動態 大型植物プランクトンの動態 琵琶湖における動物プランクトン群集の長期変動	2	1	1	1		1	6
7	8	7:42 ~ 9:35	定期観測 琵琶湖第 2 湖盆の底層 DO の把握	2					1	6
7	22	7:54 ~ 9:28	湖底環境での重合体ケイ酸の挙動	2				2	1	
7	24	9:00 ~ 11:15	琵琶湖第 2 湖盆の底層 DO の把握 琵琶湖における動物プランクトン群集の長期変動	2	1			2	1	6
8	1	8:18 ~ 12:33	定期観測 琵琶湖第 2 湖盆の底層 DO の把握 琵琶湖における動物プランクトン群集の長期変動	2	1				1	6

月	日	時間			研究課題・用務内容	乗船利用					非乗船利用	
8	4	8:30	～	11:30	琵琶湖第2湖盆の底層 DO の把握 琵琶湖におけるピコシアノバクテリアの動態 大型植物プランクトンの動態 ケイ素安定同位体比を用いた琵琶湖集水域の土地利用変化が淀川流域ケイ酸動態へ及ぼす影響評価と将来予測	2		2			1	6
8	19	9:36	～	13:13	陸水生態学実習Ⅰ・陸水学ワークショップ 琵琶湖第2湖盆の底層 DO の把握 琵琶湖における動物プランクトン群集の長期変動	2	2	1		2	1	6
9	16	8:18	～	11:57	定期観測 琵琶湖第2湖盆の底層 DO の把握 琵琶湖に生息する Eodiatomus japonicus の食性 琵琶湖におけるピコシアノバクテリアの動態 琵琶湖における動物プランクトン群集の長期変動	2	1	2			1	6
9	17	8:05	～	9:35	湖底環境での重合体ケイ酸の挙動	2				2	1	
10	3	8:11	～	11:35	定期観測 琵琶湖第2湖盆の底層 DO の把握 琵琶湖におけるピコシアノバクテリアの動態 琵琶湖における動物プランクトン群集の長期変動	2	1	1			1	6
10	7	7:49	～	10:40	ケイ素安定同位体比を用いた琵琶湖集水域の土地利用変化が淀川流域ケイ酸動態へ及ぼす影響評価と将来予測 琵琶湖第2湖盆の底層 DO の把握	2				3	1	8
10	10	8:10	～	12:42	琵琶湖固有カワナ類と寄生虫の多様性調査	2				2		
10	27	8:35	～	11:55	琵琶湖流域における薬剤耐性菌の耐性レベル分布とその変動特性の解明	2				2	1	8
11	12	8:31	～	13:40	定期観測 琵琶湖第2湖盆の底層 DO の把握 琵琶湖におけるピコシアノバクテリアの動態 琵琶湖における動物プランクトン群集の長期変動	2	1	1			1	13
11	19	7:52	～	10:44	ケイ素安定同位体比を用いた琵琶湖集水域の土地利用変化が淀川流域ケイ酸動態へ及ぼす影響評価と将来予測 琵琶湖第2湖盆の底層 DO の把握	2				2	2	9
11	25	7:58	～	9:04	湖底環境での重合体ケイ酸の挙動	2				2		
12	2	8:07	～	13:40	琵琶湖のメタン動態・微生物代謝・栄養転送の解明	2				1	1	2
12	10	8:22	～	11:41	ケイ素安定同位体比を用いた琵琶湖集水域の土地利用変化が淀川流域ケイ酸動態へ及ぼす影響評価と将来予測 琵琶湖第2湖盆の底層 DO の把握 琵琶湖におけるピコシアノバクテリアの動態	2		1		2	2	9
12	16	9:44	～	12:56	定期観測 琵琶湖第2湖盆の底層 DO の把握 琵琶湖における動物プランクトン群集の長期変動	2	1				1	6
1	7	8:20	～	11:50	定期観測 琵琶湖第2湖盆の底層 DO の把握 琵琶湖におけるピコシアノバクテリアの動態 琵琶湖における動物プランクトン群集の長期変動	2	1	1			1	6
1	19	8:10	～	12:24	環境ゲノム解析および新規培養技術を活用した琵琶湖微生物生態系の研究 琵琶湖第2湖盆の底層 DO の把握	2				1	2	11
2	5	8:20	～	13:10	定期観測 琵琶湖第2湖盆の底層 DO の把握 琵琶湖におけるピコシアノバクテリアの動態 琵琶湖における動物プランクトン群集の長期変動	2	1	2			1	6
2	10	8:18	～	13:44	下水処理場由来の薬剤耐性遺伝子による環境細菌形質転換の検証	2			3		3	20
3	6	13:49	～	14:52	給油	2						

月	日	時間			研究課題・用務内容	乗船利用					非乗船利用	
3	9	8:24	～	11:54	定期観測 琵琶湖第2湖盆の底層DOの把握 琵琶湖におけるピコシアノバクテリアの動態 琵琶湖における動物プランクトン群集の長期変動	2	1	1			1	6
3	11	7:57	～	11:37	ケイ素安定同位体比を用いた琵琶湖集水域の土地利用変化が淀川流域ケイ酸動態へ及ぼす影響評価と将来予測 琵琶湖第2湖盆の底層DOの把握	2				2	2	9

